

## 学校法人福岡学園 平成25年度事業報告の概要

### 1. 「口腔医学の学問体系の確立・育成」について

口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、10年余その実践に努めてきました。健康長寿社会を支えるため大学改革に取り組む本学の意図を社会に広めるとともに、学生・教職員と歯科医師の意識改革や社会・国民の歯学・歯科に対するイメージの変革を期待して、4月から福岡歯科大学の学部・学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更しました。

### 2. 教育の改善・充実等について

- (1) 今年度より新たに開始された「私立大学等改革総合支援事業」（文部科学省および日本私立学校振興・共済事業団が共同実施）に、福岡歯科大学はタイプ1「大学教育の質転換」に、福岡医療短期大学はタイプ1「大学教育の質転換」およびタイプ2「地域の発展を重層的に支える大学づくり」に選定され、「大学力」の向上のため組織的・体系的に大学改革に取り組む大学として、重点的に支援を受けました。
- (2) 大学においては、新たに教育実施要領を策定のうえ学年制に移行し、きめ細かな指導体制を強化して全学生の学力向上を図りました。臨床実習については、患者型ロボットを用いた救急時対応医科歯科統合シミュレーション実習を実施し、口腔医学臨床実習を充実させたほか、CAD/CAM 実習室の設置、移動型デジタル式汎用X線透視診断装置の導入、医療情報デジタル化システムを構築するなど教育環境の整備・充実にも努めました。
- (3) 大学院においては、カリキュラム・ポリシーの改訂、大学院活動ポートフォリオの整備、国内外への研修派遣制度の活用を推進し、教育・研究の質向上を図りました。
- (4) 短大においては、歯科衛生学科3年次を対象に小規模歯科医院での臨床体験を目的として、口腔医療センターにおける実習を開始、また保健福祉学科では喀痰の吸引技術や胃瘻等の栄養管理の修得のため、サンシャインシティ、サンシャインプラザ職員の非常勤講師と連携して、医療的ケア教育を行いました。
- (5) 教員の教育能力および教育の質等の向上について、大学では1) 学生支援の充実、2) 教員の資質向上、3) 大学院および研究の活性化に関するFDを実施、短大では毎月1回のFD講演会、毎週1回の合同抄読会、その他産業界GPの取組として2つの特別FD講演会を開催しました。
- (6) 「第107回歯科医師国家試験」は、既卒者を含めた総合合格率が59.3%で私立歯科大学中9位でした。今後は教育専門の部署設置等により国試対策を強化し、最低修業年限での合格率（17私大中5位：25年3月新卒）の一層の向上等に努めます。また、短大の「第23回歯科衛生士国家試験」は受験者81名のうち78名が合格し、3名が不合格でした。

### 3. 研究の活性化について

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された3つの事業を中心として、先端的研究を推進しました。

- ① 先端科学研究センターでの研究「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」は、5年間の研究の成果を5月に研究成果報告書として取り纏めて文部科学省に提出するとともに、更なる発展を目指した研究拠点を形成するための準備を行いました。
- ② 再生医学研究センターの「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究については、5月に研究成果報告会、平成26年2月にシンポジウムを開催しました。
- ③ 老化制御研究センターの「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」に関する研究については、9月に国際シンポジウムを開催するとともに、第86回日本生化学会での国際シンポジウムの場で広く社会に向けて情報を発信しました。

### 4. 学生の支援等について

- (1) 大学では、教育的配慮のもと優秀な学生が下級生の学習支援等を行うチュードレント・アシスタント(SA)制度を導入し、教育効果を高めています。留級生に対してはSA制度の活用のほか、教員による土曜開講の特別授業を行い、学力の底上げを目指します。また、双方向対話型授業支援システムを導入し、授業における教員指導の充実および学生理解度の向上を図る

- とともに、講義室に「録画用マルチメディア装置」、「画像電送装置」を整備して、学生の自己学習体制を充実させました。この他、助言教員が日々学生の指導・様々な相談に対応するとともに、オフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施しています。
- (2) 短大では、小人数教育を通じた学習成果の獲得向上および課外学習を含めた学習行動の充実等を図るため、「可動式テーブルとチェア」、「教育音響システム」、「電子黒板」等を整備しました。
- (3) 全天候型のオムニコート 3 面を新設したほか、防災機能の強化のため図書閲覧室の書架等転倒防止工事を実施し、地域開放施設および安全・安心な施設への改善を進めています。
- (4) 学生募集については、指定校の見直し、効率的・効果的な高校訪問、進学相談会への積極的参加等により、平成 26 年度入学人数は、学部 93 名（前年比 1.6 倍の 379 名が志願、競争倍率 1.2 ポイント増の 2.3 倍）、短大歯科衛生学科 103 名・保健福祉学科 25 名となりました。

## 5. 社会との連携・貢献について

- (1) 健康長寿社会の構築および地域社会の活性化に資するため、9 月に「福岡歯科大学・福岡医療短期大学地域連携センター」を開設しました。また、「地域連携推進協議会」を設置して、地域、行政、関係諸団体との連携体制を整備し、事業推進を図っています。
- (2) 医科歯科総合病院は、小児科および整形外科を増設して、医科・歯科併せて 25 診療科体制とし、外来患者数は 1 日平均 609.0 人で前年度比 6.6% 増となりました。入院患者数は 1 日平均 24.5 人で 8.1% 減となり収入も微減したため、26 年度は目標 50 人とし改善に努めます。また、電子カルテ化に備え、全科フィルムレス化構想を策定し、医療用モニター端末のほかデジタル口内法撮影システムを導入しました。なお、病院改築計画については、病院将来構想検討委員会にて「中間まとめ」を取り纏めた後、新医科歯科総合病院改築委員会を立ち上げ、検討を重ねています。
- (3) 口腔医療センターは開院 3 年目を迎え、歯学部生に加え、研修歯科医や歯科衛生学科の臨床実習生の受入れを開始、また生涯研修等を開催して最新の医療情報を発信するなど、研修施設としての機能を充実させました。なお、年間患者総数は 24,835 人（前年比 43.5% 増）、1 日平均患者数は 92.3 人となり、地域医療への貢献にも努めています。
- (4) 介護老人保健施設は、地域病院との連携や入所判定の短縮化を図り、入所者は前年度比で 2.1% 増となりましたが、通所は 6.1% 減となりました。なお、社会福祉法人学会では、平成 27 年秋の開所に向け、地域福祉の充実、福祉人材の育成等を目的とした新特別養護老人ホーム設置計画を進めています。
- (5) 国際交流では、大学はブリティッシュコロンビア大学歯学部、上海交通大学口腔医学院、慶熙大歯科大学、ヤンゴン歯科大学、中国医科大学口腔医学院と学生交流・学術交流を実施しました。また、欧米の大学との新たな交流協定締結に向け、交渉を進めています。短大は、歯科衛生学科 3 年次生が姉妹校である東釜山大学を相互交流のため訪問しました。

## 6. 組織運営について

- (1) 総合歯科医の育成に向けた教員組織の改組を部長会および教員組織検討委員会で協議しています。また、教員人事考課における客観的評価基準の導入を目指してプロジェクトチームによる検討を行っています。
- (2) 外部資金導入として、文部科学省から私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備費等補助金、教育研究活性化設備整備費補助金、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る研究費補助金および大学改革推進等補助金など約 2 億 7 千万円を受け入れました。また、科学研究費補助金として約 1 億 1 千万円を獲得しました。この他、税制上の優遇措置（税額控除対象法人）を周知し、寄附金の受け入れに努めています。
- (3) 大学は、大学基準協会および日本高等教育評価機構から“口腔医学教育の実践や臨床実習評価制度、助言教員制度”等が高く評価され、大学基準に適合しているとの評価結果を得ました。また、医科歯科総合病院は、日本医療機能評価機構・病院機能評価を受審し、「認定病院」として認められました。

少子高齢化やグローバル化など急激に社会環境が変化する中、教育の質的転換、グローバル人材育成、地域再生・活性化への対応といった大学に対する社会からの期待が高まっています。本学は医療、保健、福祉の総合学園として、活力ある健康長寿社会の形成と地域社会・国際社会の発展を目指して、全役員・教職員が一丸となって大学改革に努めて参ります。

## 学校法人福岡学園 平成25年度事業報告書

### I 法人の概要

#### 1. 法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和48年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。平成25年4月からは、口腔医学に関する活動をアピールするとともに、歯学教育や歯科医療の実態に即したものとするため、学部学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更した。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」のほか、臨床実習の拡充や地域歯科医療の向上等を目的としたサテライト施設「口腔医療センター」を博多駅前には有する。この他、全国初の「口腔保健学士」認定専攻科を持つ「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」、全国に先駆けて設置した高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。このように、今日まで一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者を育成することを目的とし、医療・保健・福祉の総合学園として、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

#### 2. 沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可
昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開学
平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャイン シティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成16年 7月	人事考課制度導入
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成17年 4月	教員の任期制導入
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更

### 3. 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

(表1)

(平成25年5月1日現在)

学校名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 北村憲司)	口腔歯学部 口腔歯学科	昭和48年	6	120	720	582
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	49
福岡医療短期大学 (学長 栢 豪洋)	歯科衛生学科	平成9年	3	80	240	271
	保健福祉学科	平成12年	2	40	80	67
	計			120	320	338
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成11年	1	20	20	24

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用 平均(人)	年間利用 延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 中島與志行)	入所	平成14年	85	81.2	29,651
	通所	平成14年	40	15.4	4,494

### 4. 出願者及び入学者等の状況

(表2)

学校名	学部学科等名	平成25年度入学者				平成26年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	226	214	176	99	379	356	163	93
	大学院歯学研究科	11	11	11	11	19	19	19	17
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	112	111	110	98	118	114	105	103
	保健福祉学科	38	37	34	33	29	28	26	25
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	25	25	25	24	19	19	19	17

### 5. 教職員数

(表3)

教員数

(平成25年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	助手	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
大学	41	16	39	46	-	142	13	1	17	6	78	257
短大	8	4	5	3	-	20	-	-	-	-	28	48
老健	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
合計	50	20	44	49	-	163	13	1	17	6	106	306

(表4)

## 職 員 数

(平成25年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員	介護職員等	医員	合計
大学	41	7	4	26	-	-	-	78
短大	3	-	-	-	3	-	-	6
病院	9	-	-	5	93	-	60	167
口腔医療センター	1	-	-	1	9	-	5	16
老健	1	-	-	2	17	41	-	61
合計	55	7	4	34	122	41	65	328

※非常勤職員を含む。

## 6. 役員・評議員・役職教職員

(平成25年5月1日現在)

(表5) 理事・監事・顧問 15名

理事長	田中健藏
常務理事	水田祥代
常務理事	本田武司
理事	北村憲司
理事	栢豪洋
理事	荒川規矩男
理事	宮口嚴
理事	厚谷彰雄
理事	小島寛
理事	田代英雄
理事	大石秀雄
理事	長谷宏一
監事	安倍徹
監事	西方和久
顧問	岩崎光太郎

(表6) 評議員 26名

評議員	田中健藏
評議員	北村憲司
評議員	栢豪洋
評議員	小島寛
評議員	厚谷彰雄
評議員	香月俊博
評議員	本山久美子
評議員	石橋慶憲
評議員	水田祥代
評議員	本田武司
評議員	中島與志行
評議員	中山宏明
評議員	池邊哲郎
評議員	荒川規矩男
評議員	田代英雄
評議員	大石秀雄
評議員	長谷宏一
評議員	松田峻一良
評議員	染矢廣美
評議員	熊澤榮三
評議員	朔啓二郎
評議員	前原喜彦
評議員	宮口嚴
評議員	武井俊哉
評議員	高橋裕
評議員	古賀千尋

(表7) 役職教職員

大学長	北村憲司
短大学長	栢豪洋
医科歯科総合病院長	小島寛
事務局長	厚谷彰雄
学生部長	高橋裕
情報図書館長	大関悟
口腔・歯学部門長	佐藤博信
全身管理・医歯学部門長	池邊哲郎
社会医歯学部門長	埴岡隆
基礎医歯学部門長	岡部幸司

## II. 事業の概要

### 1. 教育の改善・充実

#### 1) 学部・学科の名称変更

本学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することは、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

平成 25 年 4 月から、国民の負託に応える本学の意図を社会に広めるとともに、学生・教職員と歯科医師の意識改革や社会・国民の歯学・歯科に対するイメージの変革を期待して、**福岡歯科大学の学部・学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更した。**

#### 2) 口腔医学の推進

平成 20 年度文部科学省選定の戦略的連携事業『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』（助成期間：平成 20 年 11 月 20 日から 22 年度まで）を継続実施した。本学を代表校とする連携 8 大学（九州歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、福岡歯科大学）で作成したシラバスに基づいた連携大学間での TV 配信授業「医歯学連携演習」の開講、災害口腔医学や口腔ケア授業科目のモデルカリキュラム等作成、連携大学間で FD 研修会の開催および職員の短期研修派遣等に取り組んだ。この他、1 月には福岡地区で「これからの医療における口腔ケアの役割」をテーマとして口腔医学シンポジウムを開催し、専門医による最新知見の紹介とともに、口腔ケアの重要性等について広く社会に対しアピールを行った。

#### 3) 「私立大学等改革総合支援事業」に選定

平成 25 年度より文部科学省および日本私立学校振興・共済事業団が共同で実施する事業で、「大学力」の向上のため、大学教育の質的転換や、特色を發揮して地域の発展を重層的に支える大学づくりなど、私立大学等が組織的・体系的に取り組む大学改革の基盤充実に資するため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援される。

##### (1) 福岡歯科大学

###### タイプ1「大学教育の質的転換」に選定

口腔医学に基づいた少人数教育による臨床実習の充実および手術手技等に関するアクティブラーニングの実践のため、私立大学等教育

研究活性化設備整備事業の助成を受け、「顕微手術用顕微鏡および動画撮影・記録装置の整備」を実施した。

また、教員と学生とのインタラクティブな教育、授業評価およびグループ教育を実践するため、私立学校施設整備費補助金により、「無線 IC カードを用いた双方向対話型授業支援システム」を導入した。

##### (2) 福岡医療短期大学

###### タイプ1「大学教育の質的転換」および

###### タイプ2「地域の発展を重層的に支える大学づくり」に選定

少人数教育を通じた学習成果の獲得向上、学生の学習時間の更なる確保、課外学習を含めた学習行動の充実のため、私立大学等教育研究活性化設備整備事業の助成を受け、「可動式デスク・イス、教育音響システム、電子黒板、スクリーン等の整備」により短大内の 2 つの教育スペースの学習環境を充実させ、少人数グループによるアクティブラーニング教育の推進と地域貢献、生涯学習の充実に資することができた。

※タイプ1「大学教育の質的転換」：全学的な教学マネジメント体制の下、建学の精神を生かした教育の質向上のための P D C A サイクルが実践されている大学

※タイプ2「地域の発展を重層的に支える大学づくり」：地元自治体等との連携の下、地域が求める人材の育成、地域貢献、生涯学習機能の強化など、特色を發揮し、全学的に地域の発展を重層的に支える大学

#### 4) 歯学部教育

##### (1) 口腔医学教育の実践

###### ① 口腔医学カリキュラム確立の推進

一般医学科目の充実（授業時間増・新科目設置）を中心とした新しい口腔医学教育カリキュラムを実施した。連携 8 大学共有科目である「医歯学連携演習」については、小児科学と小児歯科学との連携による「小児」の授業を新設し、TV 配信により継続的に実施するとともに、各大学間で共通の定期試験問題による成績評価を行った。また、当該連携におけるカリキュラム作成担当者会議により口腔ケアアンケートを 7 月に実施し、アンケート結果をもとに口腔ケア授業科目のモデルシラバス案を提示した。

###### ② 診療参加型臨床実習の質の確保等

第 5 学年後期での臨床実習から、医科歯科総

合病院に加え、口腔医療センターでの実習を行った。また、共通評価シートを用いた客観的評価を行い、診療参加型実習の質の確保に取り組んだ。新たに作成した 11 項目から成る医療面接系、検査系、技能系総括的評価用シートに基づいた評価を実践し、総括的評価の質を担保した。

この他、私立学校施設整備費補助金等の助成を受け、次のとおり診療参加型臨床実習の充実を図った。

(ア) 病院 3 階資料室を改修のうえ、CAD/CAM 実習室を設置し、口腔・咽頭・顎骨・歯列撮影、模型作成装置および臨床実習用メタルフリー歯列修復教育教材作製装置を整備した。

(イ) 病院手術室（第 1・第 2）を改修のうえ、移動型デジタル式汎用 X 線透視診断装置を導入し、手術見学室に術野映像システムを整備した。

(ウ) 各診療科の臨床実習室、各講座の研究室・症例検討会室、介護老人保健施設サンシャインシティを網羅した臨床実習用医療情報デジタル化システムを構築した。

(エ) 病院手術室に関節内病態の視覚化教育システムおよび小児科診療室に脳波生体信号測定装置を整備した。

(オ) 口腔医療センターに手術用顕微鏡および動画撮影・記録装置一式を整備した。

### ③患者型ロボットの設置

平成 24 年度補正予算私立学校施設整備費補助金[教育装置名：診療参加型実習前のシミュレータ教育システム]に係る「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システム」の取組が採択され、患者型ロボットを本館 4 階シミュレーションロボット実習室に 24 年度 1 体に続き、25 年度にも 1 体を設置した。このロボットを用いて第 5 学年の臨床実習の中で、救急時対応医科歯科統合シミュレーション実習を後期から実施した。患者を想定した実習を可能とすることにより臨床実習内容の充実を図り、新たな口腔医学臨床実習の構築を目指すものである。

この他、第 6 学年前期の臨床実習には 2 つのコースを設け、実習成績が不十分な学生にはシミュレータを用いた補強実習を行った。この間、臨床実習中に海外（ブリティッシュコロンビア大学、上海交通大学）や学外施設（主に本学臨床教授・臨床准教授の診療施設）での研修を行うなどの積極的な取り組みも実施した。

## (2) 創造力を持った人材の育成

### ①本学独自の学年制の導入

教育現状の改善策として、学生全体の勉学意識を高め、教育のレベルアップに繋げるため、本年度から学年制に移行した。このことにより、

新たに策定した教育実施要領に基づき、全学年にきめ細かい教育を行い全学生の学力向上を図る。

### ②自学自習システムの充実

講義室に口腔医学教育の推進事業として、マルチメディア装置を設置した。

### ③リメディアル教育の充実

A O 入試 I 期および推薦・指定校推薦入試合格者に対する入学前教育については、10 月から 1 月までの 4 ヶ月に渡り補強学習として、A O 入試 I 期合格者には 4 回、推薦・指定校推薦入試合格者には 3 回の課題を課し、提出させるとともに、2 月に英語・数学・生物・化学・物理の各科目の確認試験を行った。

また、入学時にプレースメント・テストを実施し、各学生の實力を把握し助言指導を行うとともに、未履修・不得意科目の学力向上を図った。

### ④介護実習の実施

第 1 学年後期の介護施設実習、第 3 学年後期の介護宿泊実習、第 5 学年前期の介護施設での臨床実習を実施した。

### ⑤低学年の態度教育の見直し

欠席過多者を早期に発見し、助言教員等を通じて積極的な学習参加を促した。また、病院見学の注意内容を厳格化し、態度改善を図った。学生のプレゼンテーション評価については、質問者の立場と発表者の立場の 2 つの観点で同時に評価できるように評価票を改良することにより、迅速で漏れのない評価を行った。

### ⑥G P A の導入

学生の個別の学習指導および特待生等の選考参考資料として活用する成績評価指標として、各授業科目の評点を 5 段階評価(A・B・C・C・D)し、評価を点数に置き換え平均点を算出する G P A (Grade Point Average) を導入した。

### ⑦科目ナンバリングの整備

各授業科目の授業内容を示すため、学部、学年水準、履修区分、通し番号の科目番号で構成する科目ナンバリングを整備し、科目コードおよび科目番号を別表で詳細に分類することで、教育課程の体系が容易に理解できるようにした。

### ⑧C A P 制の導入

単位取得に必要な学習時間の確保のため、学生が 1 学期に履修を登録できる総単位数に上限を設定する C A P 制を導入した。

## 5) 大学院の教育

### (1) 教育の可視化・実質化等

大学院教育の質保証の前提として、教育の可視化、実質化を目的に大学院カリキュラム・ポリシーを改訂し、教育の方法・方略を定め、単

位の取得期間の見直し、コースワークおよびリサーチワークを置き大学院コースを整備した。リサーチワークでは、大学院活動ポートフォリオとして大学院研究活動報告書および大学院研究実績報告書による活動実績・成果を明確化することとした。また、教育・授業改善に繋がる大学院FDを実施するとともに、学位審査の基準の明確化および大学院満期退学者に対する学位取得制度の整備を行った。

## (2) 高度な研究能力と豊かな国際感覚の涵養

本年度の課程修了は第4学年15名、第3学年1名であり、学位を取得した。論文博士は4名を認定した。なお、学位審査における外部評価委員の導入については、福岡大学および中村学園大学と連携し、相互派遣を継続実施した。

また、今年度も学部第3学年後期「基礎研究演習」で基礎講座での研究活動を体験させ、将来の大学院生確保に向けての研究者マインドの醸成に努めるとともに、国内外への研修派遣制度の活用を推進し、ヨーロッパに2名、国内大学に3名の研修派遣を実施した。

この他、奨学生制度においては、一般奨学生10名、特別奨学生10名、リサーチアシスタント12名、ティーチングアシスタント17名を選考した。また、学生共済会大学院一般奨学金を1名に貸与した。

## (3) 口腔医学を基盤とした知的人材養成

口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させるため、小児科、整形外科の講義・実習を新たに開講し、医科疾患の診断・治療の臨床演習を実施した。

## 6) 医療短大の教育

### (1) 高度かつ実践的教育

本年度後期から歯科衛生学科3年次の臨床・臨地実習において、小規模歯科医院での臨床体験のため、口腔医療センターでの実習を開始した。また、施設実習において、より入所者に寄り添った実習が行えるよう、実習施設と連携して実習帳を改編して実習を行った。

### (2) 専門分野のエキスパート養成

歯科衛生学科においては、口腔介護（要介護者への口腔ケア）教育を充実させるため、2年次後期授業で口腔機能向上に向けた講義・実習を行ったほか、介護職員初任者研修の資格取得のための講義、施設実習を行った。

保健福祉学科においては、2年次生を対象に専門発展科目として新たな科目である「高齢者口腔ケア施設実習」と「医療的ケア実地研修」（喀痰の吸引技術や胃瘻等の栄養管理）を、教育の場であるサンシャインシティ、サンシャインプラザ〔(福)学会 介護老人福祉施設〕において、同施設職員2名の非常勤講師と連携し

て実施することで、口腔ケア・医療的ケア教育を実践できた。

### (3) 科目ナンバリング・履修系統図の整備

各授業科目に学科、学年水準、履修区分、通し番号で構成する8桁の科目番号を付す科目ナンバリングを導入し、教育課程表等で学修の段階や順序を明示することにより、教育課程の体系を容易に理解できるようにした。

また、教育課程の目的や授業科目の学修段階での位置づけ等の理解を助ける目的で、授業科目を科目群ごとに各年次別、前後期別に配置し、科目間のつながりを線で結んだ履修系統図をシラバス（授業要綱）に掲載した。

### (4) CAP制の導入

単位取得に必要な学習時間の確保のため、履修科目の数・種類が過多とならないよう学生の1年間の登録科目の登録単位数の上限を設定するCAP制を導入した。

### (5) 将来像の検討

歯科衛生学科では、教員の質の向上を図るため、グループによる研究を進めた。保健福祉学科は、修学資金制度や職業訓練制度の活用を含めた社会人を対象とした学生募集活動について月1回定期的に開催している短大運営会議の中で幅広く検討するとともに、今後の志願者動向を分析し、その在り方を検討した。

## 7) 教員の教育能力および教育の質等の向上

### (1) 福岡歯科大学

FD委員会において、毎年、組織的なFDの実施に取り組んでいる。今年度も効果的なFDを事業別に3つに大別し、1)学生支援の充実、2)教員の資質向上[e-learning 活用法のワークショップ(WS)], 3)大学院および研究の活性化[大学院指導教員インタビュー、大学院指導内容の明示化による教育の質の向上WS、各種アンケート等]について実施した。また、戦略的大学連携事業の一環として、11月に「低学年(1,2年生)教育の問題点と口腔医学」に関するWSを連携大学間でTV会議システムを用いて開催し、遠隔の大学間との意見交換も活発に行った。

その他、FD関連事業として、セクハラ防止委員会との共催でハラスメント講演会を5月に、助言教員制度を充実させるためのワークショップを6月に、シラバス作成ワークショップを12月にそれぞれ開催する等、教員の教育力向上に努めた。

### (2) 福岡医療短期大学

教育力の向上を目的として、全教員が講師を担当するFD講演会(教育方法の工夫、口腔介護教育、研究に関する報告等)を継続して開催

したことで、平成 25 年度は科研費補助金の採択件数・補助金総額ともに前年度に比べて増加した。また、平成 25 年度『産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業』の取組として、社会人基礎力を重視したコミュニケーション能力育成について学生対象のキャリア教育セミナー・ガイダンスの実施(計 8 回)や学外有識者による教職員対象の特別 FD 講演会(計 2 回)、連携・グループ会議(計 6 回)、他大学とのキャリア系授業相互参観(計 8 回)、外部評価委員会の開催(計 2 回)等を実施し、短大全体の教育支援体制を強化することができた。

### (3) その他

福岡歯科大学および福岡医療短期大学では、教員の意欲向上並びに教育の質向上および改善を図るため、各大学個別に「最優秀教育改善賞要項」を制定し、26 年度から教育活動において顕著な成果を挙げ、他の教員の模範となる教員(短大は学科別)を表彰することとした。

## 8) 国家試験

### (1) 福岡歯科大学

歯科医師国家試験合格に向けて、激励会の開催、予備校模擬試験・予備校講義の実施および卒業試験・再試験問題のブラッシュアップ等

種々の対策を講じた。今年度は 92 名の卒業生が第 107 回国家試験を受験し、52 名が合格した。合格率は 56.5%であり、前回の 72.2%から 15.7 ポイント減となった。既卒者を含めた総合の合格率は 59.3%で 17 私立歯科大学中第 9 位であった(私立歯科大学全国平均合格率 58.6%)。

共用試験は、全員に用語集を配付するなど早期対応を図ったが、第 4 学年 83 名が受験し CBT で 13 名が再試を受験した結果、3 名が不合格となり留級した。

### (2) 福岡医療短期大学

歯科衛生学科は、過年度に引き続き歯科衛生士国家試験の 100%合格を目指して、国家試験演習を 15 回実施するとともに、各回の成績不振者に対しては、水曜日、土曜日に国家試験問題集を使用する補習を実施した。また、第 21 回国試より問題が 20 問増え、新たに高齢者歯科学および障害者歯科学等の追加に対応した口腔保健テーマ別講義日程を作成、実施した。その結果、第 23 回歯科衛生士国家試験では受験者 81 名(既卒者 1 名を含む)のうち 78 名が合格した。(全国平均合格率 97.1%)

## 2. 研究の活性化

### 1) 研究の質の向上

#### (1) 研究マネジメント体制の整備等

福岡歯科大学・福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、専任教員および医員等を対象に、6 か月毎に研究(研修)テーマの取組み進捗状況をまとめ所属長を経て理事長に提出させ、理事長はこの報告書をもとに学長とともに各所属長と面談を行い、若手教員の育成、計画的な研究の実施に向けての指導を行った。

また、教育研究経費等として、福岡歯科大学には学長重点配分経費 50,000 千円、病院長重点配分経費 5,000 千円、学術振興基金事業経費 24,300 千円を、福岡医療短期大学には 1,000 千円を共同研究費として重点配分した。

平成 25 年度の研究業績は、福岡歯科大学専任教員の総論文数(著書、総説、原著論文、症例報告等)は 163 編、うち欧文は 81 編であり、福岡医療短期大学専任教員の総論文数(著書、原著論文等)は 11 編、うち欧文は 1 編であった。(別表 1)

#### 2) 先端科学研究センター

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援をうけて、平成 20 年度より 5 年間にわたって「疾患の抑制におけるゲノム安

定性と環境ストレスの制御」の研究を実施してきた。関口睦夫センター長が中心となり学内の 12 名の教授が計画研究を実施し、その他に公募によって選んだ 11 名の准教授、講師、助教による研究を行った。これらの研究の成果を研究成果報告書として取り纏め、5 月に文部科学省へ提出した。

当センターでは、疾患の発症やその進行に関わる遺伝的および環境的要因を明らかにするため、生体内でゲノムを安定に維持する機構の解明を中心に研究を進めてきた。その結果、①細胞の老化と密接に関係すると考えられる酸化 RNA の排除に関わるタンパク質の同定、②細胞のがん化を抑制するアポトーシスの実行に関わる遺伝子の同定とその産物の機能の解明、③様々な骨吸収性疾患の発症やその制御に関わる破骨細胞に関連する細胞内反応系、④リンパ管で働く病原性因子の認識と活性化の機構、⑤脳虚血の発症の抑制に必要なインターロイキン関連因子の働きの解明など大きな成果をあげることができた。

本戦略的研究では、これまでに 182 篇の原著論文を発表するとともに、総説 4 篇、図書 5 冊を刊行した。また学会発表の総計は 331 に達している。研究成果を学外の人達にも公開する

ためのシンポジウムを4回開いたが、そのうち2回は外国からの研究者も招き、英語によって実施した。

今後上記の研究をさらに発展させて、疾患の発症と進行をより適確に制御する方策を確立したいと考えている。そのための研究拠点を形成するため、「疾患の発症と進展を抑制する分子基盤」の研究計画を策定し、26年2月に文部科学省へ提出した。

当センターの研究室には、学内の研究者が利用するための各種の機器を備えている。本研究の期間内にも共焦点レーザースキャン顕微鏡(3,970万円)、フローサイトメトリーシステム(1,790万円)など各研究室では備えることができない高額な機器を購入して設置した。

### 3) 再生医学研究センター

文部科学省の平成22年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究を継続して行ってきた。実施期間は平成22年度から26年度までの5年間であり、4年目にあたる25年度も過年度と同じく研究費として約29,000千円の予算を組み、計画研究を行う11名の研究者と、学内公募により採択された10名の研究者に配分し、研究を実施した。研究進捗状況を研究分担者全員で把握するために月1回の報告会を継続して行っている。分担研究者および公募研究者による24年度の研究成果報告会を5月30日に行った。プログラムを別表2に示す。26年2月には再生医学研究センターシンポジウムを開催した。今年度は、学外より生体材料関連において著名な2名の研究者を招待し、以下の特別講演を実施した。

『細胞操作メカノバイオマテリアル』

九州大学先導物質化学研究所・木戸秋悟教授  
『今、何故、バイオミメティクスなのか？古くて、新しい、学際領域研究の現代的意義』

東北大学原子分子材料科学高等研究機構・下村政嗣教授

### 4) 老化制御研究センター

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて、「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」の研究を平成24年度より5年間にわたって実施予定である。25年度は、研究経費40,000千円のうち15,500千円を中央管理費として、人件費、シンポジウム開催費、センター運営費等に使用した他、残り24,500千円を計画研究者14名に配分して事業を進めた。計画研究者の氏名、所属・職ならびに研究分担課題は別表3に示す。

主要なセンター機器として、生体成分の検出・定量にルミノ・イメージアナライザー、生体成分の分離測定にACQUITY UPLC UVシステム、組織細胞の観察にHS オールインワン蛍光顕微鏡が整備され、導入直後から多くの参加研究者に高頻度で利用されている。

老化の進行は基本的には生理的な過程であるが、その速度やレベルは遺伝的要因と環境条件に大きく左右される。生物は様々な環境ストレスに対抗して生命を維持する能力をもっているが、そのもとなる情報はゲノムの中に保持されており、ゲノム情報を安定に維持し、情報を的確にとり出して応答する機構を明らかにすることが老化の進行や疾患を抑制する方策をたてるために必要である。本研究はそのような観点にたつて研究を進め、それによって疾患の治療に役立つ情報を得るとともに老化の進行を抑える基盤を確立しようとするものである。この研究を遂行するには基礎生命科学から医学、歯学にまたがる研究者の共同作業が必要である。そこで本研究では、福岡歯科大学に所属する分子生物学や細胞生物学、さらに口腔医学や臨床医学を専攻する研究者がチームを組んで研究を進める体制をとっている。その中心になるのは老化の抑制やがんを含む疾患の制御に関わる研究を行っている15名の教授層の研究者で、それに若手の研究者が参加し協力して研究を進めている。また、この分野の研究は世界的にも日進月歩の勢いで進んでおり、国際的な連携が不可欠である。そこでこの分野で活発な研究活動を行っているアメリカ、フランス、中国の5人の研究者の参加を求め、最新の情報を共有しつつ弾力的に研究を進めた。このような先進的な研究教育体制に大学院生を含む若手の研究者を組みこみ、将来の研究と教育を担う人材を育てたい。

なお、25年度の成果はアメリカ、UC BerkeleyのStuart Linn教授、ならびに中国、北京医院のJian-Ping Cai教授を招いて、9月9日に福岡歯科大学国際シンポジウムで報告した。さらに9月11日に横浜で開催された第86回日本生化学会での国際シンポジウムの場で広く社会に向かって情報発信した。

### 5) アニマルセンター

使用者講習会は、更新者(4年毎)23名、新規登録者18名が受講した。実験申請件数は40件であった。動物種の導入はCVラットが333匹増、またウシガエルは5匹、イヌが10頭の増加となり、研究活動の活性化も見られた。また、ガス洗濯乾燥機、SPF区域の自動扉の改修工事を行い、利用者へのサービス向上を図った。

### 3. 学生の支援等

#### 1) 修学等の支援

##### (1) 修学支援システムおよび主体的学習支援体制の整備・充実

###### ① 学生ポートフォリオの作成

低学年(1・2学年)助言教員FDを開催し、助言教員と学生とのコミュニケーションの取り方について協議した。また、班別懇談会を複数回開催して学生の状況把握に努め、特に指導が必要な学生に対しては個別面談を適宜実施のうえ、指導状況を学生ポートフォリオ(学生指導記録)として作成した。このポートフォリオは、助言教員が学生を指導の際の資料や引継ぎ資料として利用する等、学生に対する適切な指導を行った。

###### ② スチューデント・アシスタント(SA)制度の導入

学生および大学院生等が、学生に対する学習支援や学生生活支援業務に従事することにより、学生相互の成長を図ることを目的にSA制度を導入した。4月にSAを募集、学部学生24名、大学院生13名を採用し、5月より学習支援(補習)を開始した。SA自身の成長とともに、留級生を含む学生の学習意欲が高まった。

###### ③ 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

福岡歯科大学では、助言教員が日々学生の指導を行っているほか、オフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施している。休退学に関して学生や保護者からの多くの相談に、学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。

福岡医療短期大学両学科では、出欠の指導を厳格化し、成績不振学生に対する補習授業を土曜日を含めた課外時間に実施するとともに、各期毎に学年担任と助言教員による父兄面談と学生指導を継続して行った。

###### ④ 講義室、実習室、コミュニティーホール等の整備充実

福岡歯科大学では、私立学校施設整備費補助金の助成を受け、講義画像を階層的に管理し、学生の自己学習体制の充実を図るため、901・801講義室に録画用マルチメディア装置、901講義室他4講義室に画像電送装置の整備を行った。また、基礎実習の充実を図るため401・702・802各実習室に電子黒板4台、入力切替用SDIスイッチャー等の視聴覚機材を整備した。

福岡医療短期大学では、私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金の助成を受け、小人数教育等のアクティブラーニング型教育の推進および課外学習を含めた学習行動の充実等を

図るため、1階コミュニティーホールIと101教室に可動式テーブルとチェア、教育音響システム、電子黒板、スクリーン等の整備を行った。

###### ⑤ 学生意見箱の設置

自分たちの大学を良くするため、学生が「意見や気付いたこと」等を提案することにより、具体的な改善方法を見つけ出し、その実現につなげていくための取組みとして学生意見箱を設置した。また、寄せられた意見の実現に努め、学生食堂での朝食の提供等を開始した。

###### ⑥ 防災機能の強化

私立学校施設整備費補助金の助成を受け、耐震対策として、本館9階情報図書館の図書閲覧室の書架等転倒防止工事を行い、安全・安心な施設への改善を進めた。

###### ⑦ テニスコートの新設

新病院改築整備に向け、多目的グラウンド西側に総工費3,900万円をかけ、全天候型のオムニコート3面および部活用の倉庫を新設した。これに伴い、テニス大会、地域開放等によりテニスコートの活発な利用が可能となった。

###### ⑧ 和式便器の洋式便器化およびウォシュレット化の検討

学習環境整備改善の一環として学園全体の既設和式便器の洋式便器化および洋式便器のウォシュレット化への検討を開始した。平成26年3月、補助金の交付決定を受け8月末竣工予定で進めている。

#### (2) 高校等との連携推進

福岡歯科大学では、口腔医療・口腔保健・口腔介護を志向する中高生を支援するため、積極的に職場体験を受け入れるとともに、依頼のあった高校に出向いて講義を実施した。また、オープンキャンパスでは模擬実習体験等を通して、参加した中高生の興味に応えた。併せて、高校教員を招聘し、本学の教育の特色等に触れてもらい、終了後の学長、学生部長との懇談会で、率直な意見交換を行った。

福岡医療短期大学では、口腔保健・介護福祉に関心を持つ高校生の修学を支援するため、関連する講義や実習等の依頼があった高校に教員が出向き出張講義・進学ガイダンスを実施した。また、オープンキャンパスでは専門領域に関連する実習体験を実施し、向学心のある参加学生等に対応した。

#### (3) 学生の経済支援の充実

福岡歯科大学では、各種奨学金の案内および手続きを随時行ったほか、経済的に困難な学生に対して授業料減免や学生納付金納付猶予等、関係課とも連携しながら相談に応じた。

福岡医療短期大学では、在学生に対する各種奨学金の周知と申請手続き等の支援を適宜実施した。また、介護福祉士を目指して学ぶ意欲のある学生が経済的理由で進学や修学を断念することがないように、学生納付金減免制度を引き続き実施した。

#### (4) 福岡歯科大学父兄後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 8月に17地区で開催された父兄後援会支部懇談会に、本学から北村学長および役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、父兄の協力を要請するとともに父兄からの要望も聴取し、支部懇談会終了後の報告会において回答を行った。

② 学生共済会は、3月および5月に理事会と代議員会の合同会議を開催し、学生の支援のために実施する諸事業について審議し、年間の事業計画を決定した。平成25年度は就学共済給付金を3名に給付、一般奨学金貸与は32名、大学院一般奨学金は1名に貸与するほか、会員死亡弔慰金を1名に給付し支援した。

③ 同窓会については、毎年5月に開催される同窓会定時総会懇親会や定例懇談会に理事長他役員が出席し、意見交換を行って連携を図った。また、5月26日には同窓生オープンキャンパスを開催し、理事長、大学長他役職教員等および同窓会役員が出席して、参加された同窓生とその子弟らに学内施設見学や大学および入試の概況説明を行った。

## 2) 学生の受け入れ

### (1) 学生募集活動の強化と多様な選抜方法の策定

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ダイプロマ・ポリシーについては、大学・短大ともにホームページ、大学案内、入学試験要項等で公開し広く周知を図った。

福岡歯科大学では、広報については入試委員会および受験者対策PTを中心に検討のうえ高校訪問募集活動を見直し、①高校訪問前の担

当教員の説明会の徹底、②高校訪問対象校の見直し、③高校訪問時の資料の整備を行ったほか、重点校に対して効率的な高校訪問を行った。指定校については、出願実績の有無、各県での進学校を指定する等の大幅な見直しを行い、昨年度の122校から54校に絞った。

また、昨年度に引き続き、九州内で実施される進学相談会に積極的に参加し、本学の取組等について高校生や保護者に説明した。これらの結果、昨年比1.6倍の379名の志願者となり、競争倍率も1.3倍から2.3倍に上昇し、93名の学生が入学した。

福岡医療短期大学では、短大運営会議において学生募集活動についての組織的な方策を継続して検討し、高校訪問募集活動のエリア担当者を定め、高校生からの大学案内等の資料請求の情報も活用することで効果的に実施した。また、保健福祉学科では入学者の授業料減免制度、学生納付金の4期分納制度を継続運用するとともに、福岡県職業訓練制度や修学資金制度を利用した志望学生を積極的に受け入れたが、25名の入学生しか確保できなかった。

歯科衛生学科では、オープンキャンパスにおける「歯科衛生士体験」(平成22年度から実施)が好評であったので、これをシリーズ化して専攻科生による指導を加えて16回実施し学生の確保に努めた。また高校生対象の進学ガイダンスや出前講義などを実施した結果、103名の入学生を確保した。

### (2) 入試広報機能の充実等

ホームページのサイト内検索機能を導入するとともに、サイトマップの追加・修正を行い、ユーザビリティの向上を図った。また、有用な情報提供に向けてアクセス履歴の収集・分析システムを構築した。この他、福岡歯科大学では大学案内を、福岡医療短期大学では保健福祉学科のホームページを各々リニューアルし、教育の特徴や魅力の情報発信に努めた。

## 4. 社会との連携・貢献

### 1) 福岡歯科大学・福岡医療短期大学

#### 地域連携センター開設

急速に進展する高齢化を踏まえ、口腔の健康を通じた全身の健康づくり等の本学園の特色を活かして、健康長寿社会の構築および地域社会の活性化に資するため、第463回理事会(平成25年9月開催)の議を経て「福岡歯科大学・福岡医療短期大学地域連携センター」を設置した。センター長に大学長を、副センター長2名には短大学長および専任教授を充て、数名の

地域連携コーディネーターを配置し、学術的な地域貢献活動を行っている。社会、地域との専門的な対応窓口として事務室を置き、事務室長は事務局長が兼務するほか1名の専任職員を配置した。

センターの運営については、定期的にセンター運営会議を開催して決定し、具体の活動については、センター長が理事長と協議のうえ設置した専門委員会や調査研究チーム等が行う。

また、福岡県、福岡市、福岡市早良区自治組

織連絡協議会、福岡県医師会、福岡市医師会、福岡県歯科医師会、福岡市歯科医師会、本学同窓会等の代表者を含む委員で構成される「地域連携推進協議会」を設置し、地域、行政、関係諸団体と緊密に連携して、大学に対するニーズの把握、大学の情報発信を行い、事業全体の推進を図る体制を整えた。

### 【センターの業務】

- ①地域連携推進戦略の策定および地域連携の在り方の体系的整理に関すること。
- ②地域や県・市の自治体および医師会・歯科医師会等の公共団体との連絡調整に関すること。
- ③医科歯科総合病院および介護老人保健施設を中心とした地域の医療・保健・福祉等に係る諸問題の検討に関すること。
- ④公開講座、出前講座、講演会等による教育研究成果等の還元に関すること。
- ⑤歯科医師卒後臨床研修等の生涯研修の実施企画に関すること。
- ⑥その他、地域等との連携に関すること。

## 2) 医科歯科総合病院

### (1) 患者数等

外来患者・入院患者総数等は表8のとおり。

表8 外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数(人)		入院患者総数(人)	
	25年度	対前年比	25年度	対前年比
医科	41,402	24.5%増	5,593	7.8%減
歯科	124,257	1.7%増	3,365	8.5%減
合計	165,659	6.6%増	8,958	8.1%減
1日当	609.0	—	24.5	—
平均在院日数	—	—	9.2日	—
病床稼働率	—	—	49.1%	4.1%減

### (2) 安全で良質な医療の提供

#### ① 診療責任体制の整備・確立

診療の責任体制は診療科長、副科長を定め責任を明確にしており、新患の診察は教授が担当している。病院長を中心に医療事故防止対策委員会・院内感染防止対策委員会においてインシデント・ヒヤリハット分析226件(平成24年度269件)を報告し、問題点の共通認識と問題解決策の検討等を実施した。また、平成25年12月には医療事故防止のための大学間相互チェックを受審し、医療安全・質の向上に努めた。

#### ② 信頼される病院への態勢整備

(整形外科および小児科開設等)

地域医療の貢献を目指す医科と歯科の総合医療センターとして25年4月に外反母趾・軟骨障害等のスポーツ障害・変形性足関節症等の

足部疾患を得意とする整形外科および感染症の予防(ワクチン)および発達障害児への対応に力を入れている小児科を増設し、医科・歯科併せて25診療科体制とした。

また、看護師2名を増員し、常に3名の夜勤看護師を配置し、安心・安全な医療を提供できる態勢を整備した。

#### ③ 医科と歯科の連携システムを整備・強化

医科と歯科の円滑な連携を可能にする電子カルテ化に備え、全科フィルムレス化構想を策定し、医療用モニター端末等237台のほかデジタル口内法撮影システムを導入した。なお、3月末には歯科医師を対象としたX線画像読み取り装置の取扱い説明会を実施し、フィルムレス化に取り組んでいる。

#### ④ クリティカルパスの見直し

質の高い医療提供のため、25年度においては、パスの更新を4例、新規パスを2例作成し、パス症例390例を実施した。

#### ⑤ サービスの向上

患者のご意見や医療相談室に寄せられた相談131件(平成24年度140件)について、医療相談室およびサービス・マナー向上委員会において検討し、より質の高い医療に向けて医療担当職員および事務職員のマナーアップにつなげる指導等を実践した。また、障害者用駐車スペースの拡張・呼び出し放送の実施・床清掃等環境整備に係る要望について改善を図った。

さらに本学の陶芸同好会学生、写真同好会学生の協力を得て、病院ホールにおいて「陶芸展」、「写真展」を開催し、患者さんの「心の癒し」を定例企画として軌道に乗せた。

#### ⑥ 土曜診療の充実

25年度の土曜日における1日外来患者数平均は歯科75.3人(平成23年度78.6人、24年度71.8人)医科32.8人(平成23年度26.6人、24年度24.7)、合計108.1人(平成23年度105.2人、24年度96.4人)と若干増加している。患者数は、平日の4分の1程度であるが、土曜日に診療することにより地域貢献(地域の方々の利便性の確保)している。

#### ⑦ 歯科医師臨床研修の充実

平成25年度歯科医師臨床研修は、76名(複合型研修プログラム63名、単独型研修プログラム13名)が研修を行い、平成26年3月31日には76名に修了証が授与された。

また、7月14日から15日に本学で実施された平成25年度指導歯科医講習会において、本学教員24名〔(口腔医療センター2名、専攻生2名含む)、受講者43名〕が指導歯科医として認定され、本学教員の指導歯科医取得率は96.9%となった。

研修歯科医の研修と指導は、月1回のペース

で臨床実習実務担当者会、臨床研修委員会を開催し、臨床研修の進行状況を把握、研修の充実とポートフォリオ・日誌の確認を行った。また、24年度において臨床研修の評価基準の施設間の平準化を図るため作成した評価マニュアルを25年度に施行した。さらに、基本習熟コースの実績票、態度・積極性・基本的能力の観察記録および態度・積極性・基本的能力の総括評価について評価方法の改善を図り、26年度より実施することとした。

さらに、単独型プログラムを変更し、口腔医療センターにおいて1ヶ月の研修を開始した。

この他、協力型臨床研修施設の定期訪問を行い、指導環境や施設基準の確認、問題点の指導を行うとともに、医療安全に関する講習会を開催するなど、協力型臨床研修施設に対し管理型臨床研修施設として管理した。

### (3) 病院管理体制の整備・強化

#### ① 病診・病病連携体制の確立

返書状況を病診連携室で毎月チェックし、返書率の向上に向け指導したことにより12月から連続して、紹介元への返書率100%とした。

また、行政や在宅サービス提供事業所などと連携し、担当窓口として情報の共有を行ったほか、毎月一回程度開催される研修会に積極的に参加し、他病院の連携室担当者や在宅サービス実施事業所の担当者との連携を強化した。

#### ② 医療経済教育の実施

26年度の診療報酬改定に当たり、院内説明会を2回開催し、改定内容の理解を深めた。

また、カルテ記載の正確性向上のため、カルテチェック責任者による各科指導を年4回以上実施し、的確・適正な診療報酬請求に向けて指導の徹底を図った。

#### ③ 患者増対策

新聞広告、近隣町内会回覧板広告、西鉄バス車内放送、学園出入口付近看板広告やソーシャルワーカーが紹介実績のある開業医に、当院への紹介の際に使用する紹介状・病院案内等を送付または持参し、他病院の連携室担当者や在宅サービス実施事業所の担当者との連携を図り患者増に努めた。また、「お口と体の無料健康相談」の開催、出前講座「心と体・口・歯の健康の話」講演時にスライドによる病院紹介等を行った。

また、診療所および病院を訪問し、病診・病病連携を強化すべく活動を行い、25年度の新患患者数は7,503人となり、前年度比878人の増加し、13.3%増となった。

よって、25年度の1日当たり外来患者数は609.0人となり、前年度比31.2人増加し、6.6%増となった。しかし、1日当たり入院患者数については、24.5人となり、前年度比2.2人減

少し、8.1%減となった。なお、入院患者数の増加を図るため、平成26年度の病棟運営委員会の目標として、1日平均50人の確保を目指すこととした。

#### ④ 新病院建設に向けた計画策定

病院将来構想検討委員会の各専門委員会(診療科改組・臨床教員充実、臨床研修・実習充実、病診連携・患者増対策、病床増対策)で、口腔医学の確立に向けた診療科の整備、医科・歯科連携診療部門の策定および病床増等を含めた将来構想について継続的に検討し、「中間まとめ」を取り纏め6月の理事会で承認を得た。また当該委員会を発展的に解消し、新医科歯科総合病院改築委員会を立ち上げ、検討を重ねている。

#### ⑤ 情報公開

25年度は診療録等の開示要求が24件あり、個人情報保護管理委員会で審議した結果、全件開示した。その他、病院ホームページで、患者に向けて、耳寄りな話、診療Q&A等の情報を随時更新し提供するとともに、医療関係者に向けて広報誌および医科外来担当表の配付等の情報提供を行った。

#### ⑥ 施設整備

第1、第2手術室において、手術見学実習システム構築によりX線透視診断装置を設置するため、手術室内からのX線漏えい防止のための鉛入り自動ドア、鉛入りガラス窓等に入れ替える改修工事を実施した。

### 3) 口腔医療センター

#### (1) 患者数等

開院から3年目を迎え、専任歯科医師11名、歯科衛生士8名(3月1日現在)により、年間患者総数は24,835人(前年比43.5%増)、1日平均患者数は92.3人となった。

#### (2) 二周年記念報告会

開院2周年を記念して、12月14日に「二周年記念報告会」を開催し、スタッフがそれぞれの業務の現状や課題、今後の展望等について報告を行った。

#### (3) 研修施設としての活用

昨年度に引き続き福岡歯科大学第5学年の臨床実習生を受け入れた。また今年度から歯科医師臨床研修の開始に伴い臨床研修歯科医(単独型プログラム)の受け入れや福岡医療短期大学3年次の臨床実習生の受け入れを開始し、研修施設としての役割を果たしている。

#### (4) 口腔医療を実践できる人材の育成

同窓生や開業歯科医師等を対象とした卒業あるいは生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信源として活用している。今年度は大学

主催の生涯研修 17 回(総参加者数:245 人)、同窓会等の研修会・セミナー等 16 回(総参加者数:291 人)が開催され、開業医も含めた多くの歯科医師が参加した。

#### 4) 介護老人保健施設

##### (1) 利用者数

入所利用者数は、地域公民館、地区の夏祭り、病院の地域連携室、地域包括支援センター、居宅支援センター等への訪問および電話等で利用者拡大に努めるとともに、入所判定の期間短縮等を行った結果、前年度比 2.1%増となった。

また、減少傾向にあった通所利用者数も、送迎地区の拡大、利用案内チラシの配布、祝日利用日の振替、行事食の毎月実施、希望者によるバスハイク開催、庭園の植栽等の環境美化により、11 月から増加した。

サンシャインシティ施設利用者数等は表 9 のとおり

表 9 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者 (定員)	年間利用 延数(人)	稼働率 (%)	対前年比	1日当平均 (人)
入所者 (85人)	29,651	95.5	2.1%増	81.2
通所 (40人)	4,495	38.5	6.1%減	15.4

##### (2) 教育・実習施設としての活用

教育施設として福岡歯科大学および福岡医療短期大学はもとより近隣の福岡大学の医学部および看護学科の実習並び福岡女子高等学校の生徒等の実習施設として、延べ 1,572 名を対象に福祉実習、登院実習、介護職員初任者研修資格実習、口腔介護実習等を実施した。また、福岡医療短期大学の介護職員初任者研修開始に伴い、延 31 人の講師派遣を行った。

##### (3) 地域貢献

地域協力として、月 1 回の公園清掃への参加と参加者への体操指導等の講師派遣を実施した。

#### 5) 社会連携

##### (1) 大学連携事業

①「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」(中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、昨年度に引き続き 3 大学間で大学院学位論文審査委員の相互委嘱、三大学の特色を生かした教養系共同開講授業科目「食と栄養と健康～ダイエットを科学する～」を開講した。また、地域の健康づくりや疾病予防等を通じて地域社会に貢献するため、4 月に一般市民参加のウォーキングイベントを、11 月には「高齢化社会と健康～快適な生活を送るために～」をテーマに合同シンポジウムを開催した。

②「西部地区五大学連携懇話会」(九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、単位互換科目を設定するとともに、引き続き五大学共同開講授業科目「博多学」を開講した。また、職員研修の相互開放のほか、7 月にはコミュニティ政策学会分科会に参加して、地域コミュニティにおける大学の役割等について地域役員等と討論し、相互理解を図った。

③「大学ネットワークふくおか」(本学を含む福岡都市圏 20 大学と福岡市、福岡商工会議所)においては、学生企画イベントやWEBサイト等の広報活動等について協議を行った。

④「九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク(Q-Links)」の活動は、25 年度をもって終了するが、教育活動の発展と推進に寄与することを目的に 26 年度以降も活動を継続することとし、本校はその幹事校として中心的な役割を務めることとした。

活動としては、「Q-Links STUDIES 2013」に口腔医学教育の発信について寄稿した。また、11 月開催の「Q-Conference2013」には、ポスターセッションとして、口腔医学の現状に係るポスターを出展し、教職員 6 名が参加し、他大学参加者との交流等を深めた。

##### (2) 公開講座、生涯学習等

本学園では、歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成し、キャンパス内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設を設置しているという特色を生かし、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくり等を目指し、地域貢献(別表 4)、公開講座等(別表 5)を展開した。

① 福岡歯科大学では歯科医師等の生涯学習を支援するため、大学キャンパスでは「インプラントセミナー2014」および「口腔インプラント初級講習会」を、口腔医療センターでは「インプラント中級講習会」、「口腔外科・全身管理・画像診断学講習会」、「保存・歯周治療の基本と応用」および医師と歯科医師が連携して講義を行う「歯科臨床に役立つ医科の知識」を実施した。

② 福岡医療短期大学ではリカレント教育として、文部科学省の委託を受け平成 21・22 年度に実施した「歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」の経験を踏まえ、歯科衛生士並びに歯科医師の口腔介護のスキルアップを目的として、引き続き、歯科衛生士ならびに歯科医師を対象とする「口腔介護スキルアップ講座」(5 回コース)を実施した。プログラムは口腔ケアおよび口腔機能向上の専門的講義と受講者相互による演習により構成した。5 回の受講者は延べ 197 名で、そのうち全回出席した 23 名(歯科医師 2 名、歯科衛生士 21 名)に修了

証を授与した。また、本年度も専攻科生 24 名が参加し、全員に修了証を授与した。

## 6) 国際連携

### (1) 大学間交流等

#### ① 福岡歯科大学

(ア) ブリティッシュコロンビア大学歯学部 (カナダ)

前年度末から約 2 週間、学生 4 名が同大学歯学部学生交換プログラムに参加した。10 月には同大学の Shah 教授が来学し、学部学生および大学院生へ特別講義等を行った。

(イ) 上海交通大学口腔医学院 (中国)

4 月に谷口講師と学生 7 名が訪問し、視察や臨床講義を受講した。9 月に張偉杰教授ら教員 3 名と学生 6 名が来学し、同教授による講演やインプラント科、補綴科等の病院実習等を行った。

(ウ) 慶熙大学校歯科大学 (韓国)

4 月に丸田講師と学生 4 名が訪問し、視察や臨床講義を受講した。2 月にキムギョテ准教授と学生 5 名が来学し、相互交流を行った。

(エ) ヤンゴン歯科大学 (ミャンマー)

12 月に福岡歯科大学医療チームとして大関教授ら教員 4 名と医療スタッフ 1 名が訪問し、同大学と共同で口唇口蓋裂の手術等の医療活動を実施した。また、同大学長等と共同研究や今後の交流について協議した。

(オ) 中国医科大学口腔医学院 (中国)

4 月に稲井教授ら教員 2 名と学生 5 名が訪問し、視察や臨床講義を受講した。9 月に馬準教授ら教員 3 名と学生 6 名が来学し、同準教授による講演やインプラント科等の病院実習等を行った。

(カ) ロシア政府系経済団体 オーポラロシア (ロシア)

10 月にロシアの中小企業約 50 万社が加盟する「オーポラロシア」の歯科・整形外科医療チーム 4 名が来学し、大学各研究センター、患者型ロボット、病院大診療室及び CAD/CAM 等を見学し、医療等に関する意見交換を行った。

(キ) 私費外国人留学生の受け入れ

英文ホームページに Q & A 形式で留学生情報を掲載し、受け入れの促進に努めた。

#### ② 福岡医療短期大学

毎年歯科衛生学科の 3 年次生が国際交流のために姉妹校である東釜山大学を訪問している。本年度は 10 月に学生 35 名と教員 2 名が訪問し、交流を深めた。

### (2) 海外研修派遣

研究の国際化を図るため、福岡歯科大学では延べ 50 名の教職員および大学院生を海外研修派遣した (別表 6)。また、福岡医療短期大学では 5 名の教員を海外研修派遣した (別表 6)。

## 5. 組織運営

### 1) 組織運営の改善

#### (1) 教員組織の見直し

総合歯科医の育成に向けた教員組織の見直しを部長会および教員組織検討委員会で検討している。

#### (2) 教員人事考課制度の見直し

学長主導による「人事考課の確立に向けた客観的評価基準に関する調査研究 PT」において教員人事考課制度見直しの検討を行っている。

#### (3) 学長、役職教員等の権限、職務の明確化

学長を始めとする役職教職員の権限、職務等を明確にするため、学則、組織規程等を改正した。

#### (4) 病院組織の改善

医科歯科総合病院の強化・充実に向け、平成 26 年 2 月に病院規程を改正し、副病院長を置くこととした。

#### (5) 各種委員会の目標設定

委員会の活性化に向け、6 月に委員会の目標を取りまとめ、電子掲示板で公開し、11 月に経過報告を行った。目標の達成度は平成 26 年 5 月にまとめ、公開の予定である。

#### (6) 干隈用地の有効活用

高齢者の保健、医療、福祉に携わる人材育成等を目的とした社会福祉法人学会による特別養護老人ホーム設置申請書を 7 月に提出し、8 月、11 月に福岡市等のヒアリングを受け、12 月に設置事業者として採択された。27 年秋の開所に向け、実施設計等を進めている。

#### (7) 柔軟で多様な人事制度の構築

##### ① 優秀な教員確保

福岡歯科大学に重点配置教員を 1 名、大学院卒後助教を 2 名採用し、優秀な教員確保を行った。

##### ② 任期制教員の再任

任期満了となる教員 (大学：准教授 2 名、講師 2 名、助教 1 名) (短大：助教 1 名) の再任について、審議の結果、再任申請者全員を再任した。

##### ③ 事務局管理職員の再任

事務局管理職員の任期等に関する規則に基づき、6 名の課長から再任申請が提出され、全員を再任した。

## (8) 大学運営の活性化と人材育成等

### ① 人事考課システムの効果的活用

課長会において事務職員の評価標準化に向け「職位別の基本的役割」を作成し、評価を行った。

### ② 人材育成

事務職員等の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進し、事務職員等延べ75名が能力向上セミナー、資格講習会等に参加した(別表7)。学内では、業務改善等に向け階層別等の研修を行った(別表8)。また、戦略的大学連携支援事業として、連携大学間で職員の短期研修派遣を行い、神奈川歯科大学に1名を3日間派遣した(別表9)。この他、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ファシリテーション基礎研修」に事務職員2名、「ビジネススマナー基礎研修」に事務職員1名が参加した(別表10)。

## (9) 国家公務員準拠の給与改定等

国家公務員に準拠し、a)昇格時対応表の改正、b)31歳以上39歳未満の者を対象とする昇給抑制分の回復措置等を行った。

## (10) 監事、役職教員の選任等

- ① 安倍徹代表監事の平成25年8月2日辞任に伴い、後任に第461回理事会(平成25年6月開催)で藤野正春氏を選任した。任期は平成25年8月3日から26年8月2日まで。
- ② 第469回理事会(平成26年3月開催)で、平成26年4月1日付けで短大学長に栢豪洋現学長を再任した。任期は平成29年3月31日まで。また、病院の活性化等を目的に新設した副病院長に、平成26年4月1日付けで阿南壽教授(歯科保存学分野)および大星博明教授(内科学分野)を選任した。任期は平成28年3月31日まで。

## 2) 財政基盤の確保

### (1) 教育研究振興基金の充実

教育・研究条件の維持向上を図るため、第3号基本金(教育研究基金)の組入計画に従い、本年度分17億円を組み入れ、基金総額は200億円となった。

### (2) 資産運用による収入確保および経費節減

特定資産等の資金運用による収入は、円安により仕組債の運用環境が好転したことや、満期償還債券の償還差益等により8億6千万円となり、前年度を約8千万円上回る10.8%の増収となった。一方、支出については、引き続き、不要不急の支出は厳しく抑制し、効率的な予算執行を行った。

### (3) 外部資金獲得

福岡歯科大学は、私立学校施設整備費補助金

等(平成24年度補正予算含む)に10件の申請を行い、10件すべて採択された(表10)。

表10 私立学校施設整備費補助金等(単位:千円)

補助区分	事業名	補助額
教育装置	インタラクティブ手術見学実習・手術教材データ収集システム	21,885
教育装置	関節内病態の視覚化教育システムの構築	10,011
教育装置	診療参加型実習前のシミュレータ教育システム	12,824
教育装置	臨床実習用医療情報デジタル化システム	67,468
教育装置	デジタル化技術を用いた臨床実習用メタルフリー歯列修復教育教材作製装置	5,160
ICT推進	マルチメディア装置による口腔医学教育の推進事業	11,801
ICT推進	実習重視型、基礎・口腔医学教育のための実習室視聴覚機材整備事業	9,746
教育基盤	診療参加型臨床実習用デジタル教材作製装置	14,700
教育基盤	脳波生体信号測定装置	3,231
防災機能	書架等転倒防止耐震対策工事	2,566
	計	159,392

また、私立大学等改革総合支援事業の対象校(タイプ1)に選定されたことにより、教育研究活性化設備整備費補助金として12,902千円(手術用顕微鏡他)、ICT推進として25,224千円(双方向対話型教育支援システム)の助成を受けた。このほか、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る研究費補助金として31,200千円(再生医学研究:13,113千円、老化制御研究18,087千円)の助成を受けた。

福岡医療短期大学は、私立大学等改革総合支援事業の対象校(タイプ1およびタイプ2)に選定されたことにより、教育研究活性化設備整備費補助金として、タイプ1:14,050千円(コミュニティホール1の整備)、タイプ2:8,608千円(101教室の整備)の助成を受けた。また、大学改革推進等補助金として、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業11,811千円の助成を受け、教育の質向上を図ることができた。また、福岡県福祉・介護人材確保臨時対策事業として4,817千円の助成を受け、福祉系人材確保としての学生募集活動を進めることができた。

科学研究費助成事業の獲得状況は、別表11(大学)、別表12(短大)のとおり。科研費獲得に向け、申請予定者を対象に、申請のポイント等に関する説明会を実施したほか、科研費獲得PT等のメンバーによるブラッシュアップを行うなど、申請内容の充実に努めた。その結果、福岡歯科大学では前年度に比し、新規採択件数が2件増(22件から24件)、補助金内定額が111,670千円(約4,810千円増)となった。

この他の競争的資金の申請件数は21件(前

年度 13 件)であった。また、福岡歯科大学は奨学寄附金として 23 件 (12,859 千円)、受託研究として 6 件 (7,470 千円)を受け入れた。

#### (4) 個人寄附金の受入れ促進

学園ホームページおよび学園広報誌において、本学に寄附をした場合の税制上の優遇措置(税額控除)を周知したほか、10 月発行の学園広報誌に寄附金募集の文書を折込むなど積極的な寄附金募集を行ったが、3 月末までの個人寄附件数は 103 件で寄附金額は約 180 万円であった。

#### (5) 増収に向けた病院の態勢整備等

保険審査委員とカルテチェック責任者を同一とし、歯科カルテチェック責任者に対し保険請求に係る科別指導を 4 回以上実施し、保険診療に関する理解を深め、保険医として備えるべき知識を習得し、正しい診療正しい保険請求を行い、病院収入の確保に努めることとしている。

#### (6) 事務処理の合理化・効率化

教職員の健康診断(年 2 回実施)、約 550 人分の検査データ等(20 項目)をデータベース化した。

#### (7) エネルギー使用量の削減

全学的に節電に取り組んだが、夏の猛暑の影響により、平成 25 年度のエネルギー使用量は前年度比で、電力 3.6%増、ガス使用量 11.5%増となった。

### 3) 認証評価への対応

#### (1) 福岡歯科大学

3 月に大学基準協会、6 月に日本高等教育評価機構へ自己点検評価書等を提出、実地調査を経て、3 月 11 日付で両認証評価機関から「大学基準に適合している」との報告書および認定証を受領した。報告書では口腔医学教育の実践や臨床実習評価制度、助言教員制度等が本学の歯学教育の強みとして高く評価された。

#### (2) 医科歯科総合病院

平成 24 年度に受審した病院機能評価について、6 月 7 日付けで平成 25 年度から 5 年間、認定された。また、病院機能評価委員会を 4 回開催するとともに防災対策用の担架 4 台を配置する等、次回の認定受審に向けて準備を始めた。

#### (3) 福岡医療短期大学

平成 26 年度の認証評価受審に向けて、全教員が報告書の担当領域の執筆作業と提出資料・備付資料等の収集作業を実施している。平成 26 年 6 月予定の「自己点検・評価報告書」の提出、9 月予定の訪問調査に向けて、各担当作業の進捗状況報告を自己点検・評価委員会で確認している。

#### (4) 情報公開等の推進

教育情報の公開については、教育研究活動に関する情報や修学上の情報等についてインターネット上のホームページで積極的に公開した。なお、次年度より各教員の教育業績に関する情報を発信することを決定し、その準備を開始するなど、有用な情報公開に向けて取り組んだ。

財務情報については、学園の利害関係者から請求があった場合、いつでも対応できるよう、財務書類および事業報告書を財務課に設置している。また、広く一般の方への情報公開については、学校法人会計と企業会計の相違点、財務比率の見方などの解りやすい説明を加えたほか、決算概要に財務データの項を設け、決算に関する主要な数値をグラフ化するなど、ホームページでの公開内容の充実を図った。

### 4) 安全管理および法令遵守

#### (1) 情報化組織および管理体制の整備・充実

① 情報システム委員会において平成 24 年度に設置した「教育情報管理運営作業部会」、「医療情報管理運営作業部会」および「情報基盤管理運営作業部会」の活動状況の確認を行い、委員会と各作業部会との連携を密にするため、各作業部会の情報を随時、委員長へ報告し、必要に応じて委員会で審議することとした。

② 無線 LAN の普及に対応し、IP アドレスの管理を各所属のグループライダーが行っていたが、将来的な LAN 管理室での一元管理に向けて、その実効性を図るため 4 月からテスト運用を開始した。その結果、LAN 管理室で一元管理することで、不正な情報端末の利用を抑制できることが確認できた。今後、情報セキュリティポリシーの啓発を行い職員の意識向上による学内 LAN のセキュリティ確保に務める。

③ 情報図書委員会において、図書館およびラーニング・コモンズを利用する学生等の自学自習支援に伴う環境整備として「情報図書館 ICT 化」のシステム構成および仕様等を作成し、次年度設置に向けて平成 26 年度予算化を実施した。

#### (2) 医療情報システム(HIS)の充実および安定的な運用

① 電子カルテ化に備え、全科フィルムレス化構想に基づき 26 年 4 月 1 日よりフィルムレス化した。

② 次期医療情報システムについては、情報システム委員会および科長会において了承された HIS 更新基本方針に従って、医療情報管理運営作業部会の次期 HIS 検討作業グルー

プにおいて、グループ毎に情報を収集のうえ仕様書（案）を作成した。

### **(3) セクシュアル・ハラスメント対策等**

ハラスメント防止体制等強化のため、相談員を2名増員し、啓発パンフレット・ポスターを改訂、必要個所に掲出した。併せて、相談員研修会、ハラスメント講演会を実施した。

### **(4) 公益通報に関する規程の制定等**

公益通報者保護法に基づき「学校法人福岡学園公益通報に関する規程」を制定した。また、建物ごとの「防災マニュアル」を作成、教職員に配布した。

### **(5) 公的研究費の適正管理**

11月22日～26日に、公的資金の内部監査厳格化の一環として、科研費等で購入した物品のうち、無作為抽出した約70点について業者伝票と本学の伝票との照合及び現物照合を監事と実施した。

## **5) その他**

### **(1) 税務調査の実施**

12月2日から5日間に亘り西福岡税務署による税務調査が実施された。書類等の整備について好評を得たほか、検討を要する事項等は監事や公認会計士に相談のうえ税務署との見解の摺り合せを行い、特段の問題もなく終了した。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 資金収支の状況

平成 25 年度資金収支計算書の収入額は 173 億 1,118 万 7 千円で、前年度からの繰越支払資金 6 億 5,230 万 6 千円を加えると、収入合計は 179 億 6,349 万 3 千円である。支出額は 172 億 3,294 万 4 千円となり、次年度繰越支払資金は 7 億 3,054 万 9 千円であった。**(別表 13)**

#### 2. 消費収支の状況

平成 25 年度消費収支計算書の帰属収入合計額は 71 億 1,539 万 7 千円で、施設改修工事費及び機器備品取得費等として第 1 号基本金に 4 億 1,284 万 4 千円及び教育研究基金等の第 3 号基本金に 17 億 1,358 万円、合計 21 億 2,642 万 4 千円を組入れたことにより、消費収入の部合計額は 49 億 8,897 万 3 千円となった。消費支出の部合計額は 57 億 3,965 万 5 千円で、差引 7 億 5,068 万 2 千円の当年度消費支出超過となり、前年度からの繰越消費収入超過額 15 億 5,566 万 3 千円と基本金取崩額 60 万 3 千円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は 8 億 558 万 4 千円であった。**(別表 14)**

#### 3. 貸借対照表

平成 25 年度末（平成 26 年 3 月 31 日）現在の貸借対照表資産の部合計額は、595 億 3,589 万 5 千円で、負債の部合計額 24 億 2,888 万 7 千円を差引いた正味財産は、571 億 700 万 8 千円となり、平成 24 年度に比べ 13 億 7,574 万 2 千円の増であった。**(別表 15)**

#### 4. 財務比率表

財務比率表の内、貸借対照表関係の総負債比率は、平成 25 年度末で 4.1%であった。消費収支計算書関係では、人件費比率 49.5%、教育研究経費比率 27.1%、管理経費比率 3.6%であった。**(別表 16)**

#### 5. 経年比較

資金収支総括表、消費収支総括表、貸借対照表、財務比率表の経年比較（5 年間）及び帰属収入・消費支出構成比率表**(別表 17)**、年度別推移表**(別表 18)**を添付した。いずれも特に問題なく順調に推移した。

# 別表1 平成25年度研究業績（欧文）一覽

[福岡歯科大学]

## 1.著書

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Association between perception of dentist oversupply and expectations of dentistry: a survey of dental graduates in japan.	Watanabe T, Hanioka T, Yamamoto M, Haresaku S, Shimada K, Naito T	International Dental Journal	63	3	137-144	2013
	Sphingosine-1-phosphate promotes the nuclear translocation of $\beta$ -catenin and thereby induces osteoprotegerin gene expression in osteoblast-like cell lines.	Matsuzaki E, Hiratsuka S, Hamachi T, Takahashi-Yanaga F, Hashimoto Y, Higashi K, Kobayashi M, Hirofuji T, Hirata M, Maeda K	Bone	55	2	315-324	2013
	Lupus-like oral mucosal lesions in mercury-induced autoimmune response in brown norway rats.	Seno K, Ohno J, Ota N, Hirofuji T, Taniguchi K	BMC Immunology	14		47	2013
	Effect of mouth cleaning with hinokitil-containing gel on oral malodor: a randomized, open-label pilot study.	Iha K, Suzuki N, Yoneda M, Takeshita T, Hirofuji T	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontology	116	4	433-439	2013
	Tooth loss and risk of hip fracture: a prospective study of male Japanese dentists.	Wakai K, Naito M, Naito T, Kojima M, Nakagaki H, Umemura O, Yokota M, Hanada N, Kawamura T	Community Dentistry and Oral Epidemiology	41	1	48-54	2013
	Management of sleep-time masticatory muscle activity using stabilisation splints affects psychological stress.	Takahashi H, Masaki C, Makino M, Yoshida M, Mukaibo T, Kondo Y, Nakamoto T, Hosokawa R	Journal of Oral Rehabilitation	40	12	892-899	2013
	Supervised machine learning-based classification of oral malodor based on the microbiota in saliva samples.	Nakano Y, Takeshita T, Kamio N, Shiota S, Shibata Y, Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T, Yamashita Y	Artificial Intelligence in Medicine	60	2	97-101	2014
	In vitro and in vivo expression of aldehyde dehydrogenase 1 in oral squamous cell carcinoma.	Ota N, Ohno J, Seno K, Taniguchi K, Ozeki S	International Journal of Oncology	44	2	435-442	2014
	Effects of S-PRG eluate on oral biofilm and oral malodor.	Suzuki N, Yoneda M, Haruna K, Masuo Y, Nishihara T, Nakanishi K, Yamada K, Fujimoto A, Hirofuji T	Archives of Oral Biology	59	4	407-413	2014
Sleep bruxism is affected by peripheral benzodiazepine receptor gene polymorphisms	Murakami T, Masaki C, Makino M, Mukaibo T, Kondo Y, Nakamoto T, Hosikawa R	international journal of stomatology & occlusion medicine			10.1007/s12548-013-0101-z	2014	
口腔治療学	Salivary levels of cortisol and chromogranin A in patients with burning mouth syndrome: a case-control study	Haruna C, Soh I, Yoshida A, Awano S, Anan H, Ansai T	Open Journal of Stomatology			39-43	2013
	A novel inhibitory mechanism of nitrogen-containing bisphosphonate on the activity of Cl <sup>-</sup> extrusion in osteoclasts.	Ohgi K, Kajiya H, Okamoto F, Nagaoka Y, Onitsuka T, Nagai A, Sakagami R, Okabe K	Naunyn-Schmiedeberg's Archives of Pharmacology	386	7	589-598	2013
	Cell viabilities and biodegradation rates of DNA/protamine complexes with two different molecular weights of DNA.	Mori N, Ohno J, Sakagami R, Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Biomedical Materials Research. Part B, Applied Biomaterials	101	5	743-751	2013
	Association of caspase-14 and filaggrin expression with keratinization of the oral mucosa and reconstruction culture rat models.	Murakami H, Okamura K, Aoki S, Sakagami R, Yamazaki J	Journal of Periodontal Research			doi: 10.1111/jre.12152	2013
	Immunohistochemical study of lysosome-associated membrane proteins during periodontal ligament development	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y	Journal of Hard Tissue Biology	22	2	233-240	2013
咬合修復学	Shear bond strength of an autopolymerizing repair resin to injection-molded thermoplastic denture base resins.	Hamanaka I, Shimizu H, Takahashi Y	Acta Odontologica Scandinavica	71	5	1250-1254	2013

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
咬合修復学	Consensus statement from JPS global workshop kyoto 2012.	Koyano K, Maeda Y, Christian S, Stohler, Regina Mericske-Stern, James D. Hudson, Soon-Ho Yim, Hyeong-Seob Kim, Udey Vir Gandhi, Sato H, Kuboki T, Yatani H	Journal of Prosthodontic Research	57	3	153-155	2013
	Flexural properties of denture base resins subjected to long-term water immersion.	Takahashi Y, Hamanaka I, Shimizu H	Acta Odontologica Scandinavica	71	3-4	716-720	2013
	The potential role of transient receptor potential type A1 as a mechanoreceptor in human periodontal ligament cells.	Tsutsumi T, Kajiji H, Fukawa T, Sasaki M, Nemoto T, Tsuzuki T, Takahashi Y, Fujii S, Maeda H, Okabe K	European Journal of Oral Sciences	121	6	538-544	2013
	Osteogenic evaluation of DNA/Protamine complex paste in rat cranial defects	Shinozaki Y, Yanagi T, Yamaguchi Y, Kido H, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	22	4	401-408	2013
	Peri-implant bone density in senile osteoporosis-changes from implant placement to osseointegration.	Beppu K, Kido H, Watazu A, Teraoka K, Matsuura M	Clinical Implant Dentistry and Related Research	15	2	217-226	2013
	Properties of injection-molded thermoplastic polyester denture base resins.	Hamanaka I, Takahashi Y, Shimizu H	Acta Odontologica Scandinavica	72	2	139-144	2014
	Zirconia implant with rough surface produced by YAG laser treatment: Evaluation of histomorphology and strength of osseointegration	Kakura K, Yasuno K, Taniguchi Y, Yamamoto K, Sakai T, Irie A, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	23	1	77-82	2014
	Zirconia implants with laser surface treatment: Peri-implant bone response and enhancement of osseointegration	Yasuno K, Kakura K, Taniguchi Y, Yamaguchi Y, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	23	1	93-100	2014
	The effects of implant surface characteristics on surrounding bone: A comparative study of two types of surface characteristics	Yamamoto K, Yanagi T, Watazu A, Teraoka K, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	23	1	83-92	2014
成長発達歯学	Altered dynamics in the renal lymphatic circulation of type 1 and type 2 diabetic mice.	Uchiyama T, Takata S, Ishikawa H, Sawa Y	Acta Histochemica et Cytochemica	46	2	97-104	2013
	Risk factors to cause tooth formation anomalies in chemotherapy of paediatric cancers.	Nishimura S, Inada H, Sawa Y, Ishikawa H	European Journal of Cancer Care	22	3	353-360	2013
	Quantitative evaluation of myofibroblast apoptosis during wound healing in rat palate after post-operative administration of basic fibroblast growth factor (bFGF).	Hata Y, Ishikawa H, Ueki T, Kajiji T, Tamaoki S, Tsuruga E, Sawa Y, Taniguchi K	Acta Odontologica Scandinavica	71	6	1501-1507	2013
	Oxygen saturation and electromyographic changes in masseter muscle during experimental chewing of gum with harder texture.	Horikoshi E, Ishikawa H, Yoshida T, Tamaoki S, Kajiji T	Acta Odontologica Scandinavica	71	6	1378-1385	2013
	Expression of toll-like receptor 4 in glomerular endothelial cells under diabetic conditions.	Takata S, Sawa Y, Uchiyama T, Ishikawa H	Acta Histochemica et Cytochemica	46	1	35-42	2013
	Development of a virtual reality force feedback-enabled dental drill training simulation	Ozaki M, Micheal S, Baba A, Yanagida K, Kashiwamura H	Biomedical fuzzy and human sciences	18	2	49-55	2013
	Distribution of podoplanin-expressing cells in the mouse nervous systems	Tomooka M, Kaji C, Kojima H, Sawa Y	Acta Histochemica et Cytochemica	46	6	171-177	2013
	Immunohistochemical study of lysosome-associated membrane proteins during periodontal ligament development	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y	Journal of Hard Tissue Biology	22	2	233-240	2013

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
成長発達歯学	Regulation of the epithelial adhesion molecule CEACAM1 is important for palate formation.	Oka K, Junko M, Koshino A, Uchida H, Hieda Y, Nohara K, Koga M, Chai Y, Sakai T	PLOS ONE	8	4	e61653	2013
	Matrix metalloproteinase-2 degrades fibrillin-1 and fibrillin-2 of oxytalan fibers in the human eye and periodontal ligaments in vitro.	Kawagoe M, Tsuruga E, Oka K, Sawa Y, Ishikawa H	Acta Histochemica et Cytochemica	46	5	153-159	2013
	Proteolytic and non-proteolytic activation of keratinocyte-derived latent TGF- $\beta$ 1 induces fibroblast differentiation in a wound-healing model using rat skin.	Hata S, Okamura K, Hatta M, Ishikawa H, Yamazaki J	Journal of Pharmacological Sciences	124		230-243	2014
口腔・顎顔面外科学	Inhibition of extracellular signal-regulated kinase downregulates claudin-2 expression and alters paracellular permeability in mouse rectum CMT93-II cells.	Inai T, Kitagawa N, Hatakeyama Y, Ikebe T, Iida H, Fujita M	Tissue and Cell	45	3	175-182	2013
	Lupus-like oral mucosal lesions in mercury-induced autoimmune response in brown norway rats.	Seno K, Ohno J, Ota N, Hirofuji T, Taniguchi K	BMC Immunology	14		47	2013
	In vitro and in vivo expression of aldehyde dehydrogenase 1 in oral squamous cell carcinoma.	Ota N, Ohno J, Seno K, Taniguchi K, Ozeki S	International Journal of Oncology	44	2	435-442	2014
診断・全身管理学	Creation of a paper model of a dental X-ray tube head for use in teaching	Kagawa T, Hashimoto M, Inadomi D, Shiraiishi T, Horio C, Ogawa K, Miwa K, Yonetsu K, Yuasa K	The Journal of Fukuoka Dental College	39	2	109-114	2013
総合医学	Effects of the superoxide dismutase mimetic tempol on impaired endothelium-dependent and endothelium-independent relaxations in type II diabetic rats.	Oniki H, Goto K, Fujii K, Kansui Y, Murakami N, Ohtsubo T, Matsumura K, Kitazono T	Clinical and Experimental Hypertension	35	2	112-119	2013
	Evaluation of pathogenicity of candida albicans in germination-ready states using a silkworm infection model.	Matsumoto H, Nagao J, Cho T, Kodama J	Medical Mycology Journal	54	2	131-140	2013
	Neuroendocrine phenotypes in a boy with 5q14 deletion syndrome implicate the regulatory roles of myocyte-specific enhancer factor 2C in the postnatal hypothalamus.	Sakai Y, Ohkubo K, Matsushita Y, Akamine S, Ishizaki Y, Torisu H, Ihara K, Sanefuji M, Kim MS, Lee KU, Shaw CA	European Journal of Medical Genetics	56	9	475-483	2013
	Immunogenicity and safety after booster vaccination of diphtheria, tetanus, and acellular pertussis in young adults: an open randomized controlled trial in Japan.	Hara M, Okada K, Yamaguchi Y, Uno S, Otsuka Y, Shimanoe C, Nanri H, Horita M, Ozaki I, Nishida Y, Tanaka K	Clinical and Vaccine Immunology	20	12	1799-1804	2013
	Effect of palivizumab prophylaxis on subsequent recurrent wheezing in preterm infants.	Yoshihara S, Kusuda S, Mochizuki H, Okada K, Nishima S, Eric A.F. Simoes, on behalf of the C-CREW Investigators	Pediatrics	132	5	811-818	2013
	Phase III clinical trials comparing the immunogenicity and safety of the vero cell-derived japanese encephalitis vaccine Encevac with those of mouse brain-derived vaccine by using the Beijing-1 strain.	Miyazaki C, Okada K, Ozaki T, Hirose M, Iribe K, Yokote H, Ishikawa Y, Togashi T, Ueda K	Clinical and Vaccine Immunology	21	2	188-195	2013
	Increased prevalence of postural orthostatic tachycardia syndrome in psychogenic fever patients.	Lkhagvasuren B, Masuno T, Kanemitsu Y, Sudo N, Kubo C, Oka T	Psychotherapy and Psychosomatics	82	4	269-270	2013
	IL-10 is significantly involved in HSP70-regulation of experimental subretinal fibrosis.	Yang Y, Takeda A, Yoshimura T, Oshima Y, Sonoda KH, Ishibashi T	PLOS ONE	8	12	e80288	2013
Clinical characteristics of resistant hypertension evaluated by ambulatory blood pressure monitoring.	Kansui Y, Matsumura K, Kida H, Sakata S, Ohtsubo T, Ibaraki A, Kitazono T	Clinical and Experimental Hypertension			Epub	2013	

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合医学	Association between sleep duration and urinary albumin excretion in patients with type 2 diabetes: the Fukuoka Diabetes Registry.	Ohkuma T, Fujii H, Iwase M, Ogata-Kaizu S, Ide H, Kikuchi Y, Idewaki Y, Jodai T, Hirakawa Y, Nakamura U, Kitazono T	PLOS ONE	8	11	e78698	2013
	Impact of dietary fiber intake on glycemic control, cardiovascular risk factors and chronic kidney disease in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: the Fukuoka Diabetes Registry.	Fujii H, Iwase M, Ohkuma T, Ogata-Kaizu S, Ide H, Kikuchi Y, Idewaki Y, Joudai T, Hirakawa Y, Uchida K, Sasaki S, Nakamura U, Kitazono T	Nutrition Journal	12		159	2013
	Dietary polyphenols and colorectal cancer risk: the Fukuoka colorectal cancer study.	Wang ZJ, Ohnaka K, Morita M, Toyomura K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K	World Journal of Gastroenterology	19	17	2683-2690	2013
	Folate-related nutrients, genetic polymorphisms, and colorectal cancer risk: the Fukuoka colorectal cancer study.	Morita M, Yin G, Yoshimitsu S, Ohnaka K, Toyomura K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention	14	11	6249-6256	2013
	The clinical utility of serum tartrate-resistant acid phosphatase 5b in the assessment of bone resorption in patients on peritoneal dialysis.	Yamada S, Tsuruya K, Yoshida H, Taniguchi M, Haruyama N, Tanaka S, Eriguchi M, Nakano T, Kitazono T	Clinical Endocrinology	78	6	844-851	2013
	A novel Platelet-Activating factor receptor antagonist inhibits choroidal neovascularization and subretinal fibrosis.	Han Zhang, Yang Yang, Atsunobu Takeda, Yoshimura T, Yuji Oshima, Koh-Hei Sonoda, Tatsuro Ishibashi	PLOS ONE	8	6	e68173	2013
	Suppression of autoimmune retinal inflammation by an antiangiogenic drug.	Yoshimura T, Ofra Benny, Lauren Bazinet, Robert J. D'Amato	PLOS ONE	8	6	e66219	2013
	Mice heterozygous for the xanthine oxidoreductase gene facilitate lipid accumulation in adipocytes	Murakami N, Ohtsubo T, Kansui Y, Goto K, Noguchi H, Haga Y, Nakabeppu Y, Matsumura K, Kitazono T	Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology	34	1	44-51	2014
	Cerebral oxidative stress induces spatial working memory dysfunction in uremic mice: neuroprotective effect of tempol.	Fujisaki K, Tsuruya K, Yamato K, Toyonaga J, Noguchi H, Nakano T, Taniguchi M, Tokumoto M, Hirakata H, Kitazono T	Nephrology Dialysis Transplantation	29	3	529-538	2014
	High blood pressure after acute ischemic stroke is associated with poor clinical outcomes: Fukuoka Stroke Registry.	Ishitsuka K, Kamouchi M, Hata J, Fukuda K, Matsuo R, Kuroda J, Ago T, Kuwashiro T, Sugimori H, Nakane H, Ooboshi H	Hypertension	63	1	54-60	2014
	ABCD3 and ABCD3-I scores are superior to ABCD2 score in the prediction of short- and long-term risks of stroke after transient ischemic attack.	Kiyohara T, Kamouchi M, Kumai Y, Ninomiya T, Hata J, Yoshimura S, Ago T, Okada Y, Kitazono T, FSR investigators, Ooboshi H	Stroke	45	2	418-425	2014
	U-shaped association of sleep duration with metabolic syndrome and insulin resistance in patients with type 2 diabetes: The Fukuoka Diabetes Registry.	Ohkuma T, Hiroki Fujii, Masanori Iwase, Shonako Ogata-Kaizu, Hitoshi Ide, Yohei Kikuchi, Yasuhiro Idewaki, Tamaki Jodai, Yoichiro Hirakawa, Udai Nakamura, Takanari Kitazono	Metabolism	63	4	484-491	2014
	Melanocyte-secreted fibromodulin promotes an angiogenic microenvironment.	Irit Adini, Kaustabh Ghosh, Avner Adini, Zai-Long Chi, Yoshimura T, Ofra Benny, Kip M Connor, Michael S. Rodgers, Lauren Bazinet, Amy E Birsner, Diane R. Bielenberg and Robert J. D'Amato	The Journal of Clinical Investigation	124	1	425-436	2014

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
口腔保健学	Association between perception of dentist oversupply and expectations of dentistry: a survey of dental graduates in japan.	Watanabe T, Hanioka T, Yamamoto M, Haresaku S, Shimada K, Naito T	International Dental Journal	63	3	137-144	2013
	Smoking increases risk of tooth loss: A meta-analysis of the literature	Sato F, Sawamura M, Ojima M, Tanaka K, Hanioka T, Tanaka H, Matsuo K	World Journal of Meta-Analysis	1	1	16-26	2013
	The role of tobacco use on dental care and oral disease severity within community dental clinics in japan.	Ojima M, Hanioka T, Shimada K, Haresaku S, Yamamoto M, Tanaka K	Tobacco Induced Diseases	11	1	13	2013
	An evolutionary method for associative local distribution rule mining	Shimada K, Hanioka T	Lecture Notes in Computer Science	7987		pp.239-253	2013
	An evolutionary associative contrast rule mining method for incomplete database	Shimada K, Hanioka T	Proceeding of the 2013 International Conference on Data Mining			pp.160-166	2013
	Active and passive smoking and prevalence of periodontal disease in young japanese women.	Tanaka K, Miyake Y, Hanioka T, Arakawa M	Journal of Periodontal Research	48	5	600-605	2013
	Salivary cotinine concentrations and prevalence of periodontal disease in young japanese women: the Kyushu Okinawa maternal and child health study.	Tanaka K, Matsuse R, Miyake Y, Hanioka T, Arakawa M	Journal of Periodontology	84	12	1724-1729	2013
VDR gene polymorphisms, interaction with smoking and risk of periodontal disease in Japanese women: the Kyushu Okinawa maternal and child health study.	Tanaka K, Miyake Y, Hanioka T, Arakawa M	Scandinavian Journal of Immunology	78	4	371-377	2013	
機能生物化学	Evaluation of pathogenicity of candida albicans in germination-ready states using a silkworm infection model.	Matsumoto H, Nagao J, Cho T, Kodama J	Medical Mycology Journal	54	2	131-140	2013
	Involvement of the novel two-component NsrRS and LcrRS systems in distinct resistance pathways against nisin A and nukacin ISK-1 in Streptococcus mutans.	Kawada-Matsuo M, Oogai Y, Zendo T, Nagao J, Shibata Y, Yamashita Y, Ogura Y, Hayashi T, Sonomoto K, Komatsuzawa H	Applied and Environmental Microbiology	79	15	4751-4755	2013
	Age-dependent accumulation of 8-oxoguanine in the DNA and RNA in various rat tissues.	Nie B, Gan W, Shi F, Hu GX, Chen LG, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Oxidative Medicine and Cellular Longevity			doi: 10.1155/2013/303181.	2013
	Search for proteins required for accurate gene expression under oxidative stress: roles of guanylate kinase and RNA polymerase.	Inokuchi H, Ito R, Sekiguchi T, Sekiguchi M	The Journal of Biological Chemistry	288	46	32952-32962	2013
歯科医療工学	Fabrication of $\beta$ TCP foam using $\alpha$ TCP foam as a precursor by heat treatment	Nikaido T, Tsuru K, Kawachi G, Muna M, Matsuya S, Nakamura S, Ishikawa K	Key Engineering Materials	529-530		15-18	2013
	Protectivity and adhesive strength of zinclipscombite coating on 316L stainless steel	A Valanezhad, Tsuru K, Maruta M, Matsuya S, Ishikawa K	Key Engineering Materials	529-530		251-254	2013
	Improvement in handling property of $\alpha$ TCP cement	Maruta M, Matsuya S, Tsuru K, Ishikawa K	Key Engineering Materials	529-530		202-205	2013
	Preparation of carbonate apatite cement based on $\alpha$ -TCP	Matsuya S, Maruta M, Tsuru K, Ishikawa K	Key Engineering Materials	529-530		197-201	2013
	Basic properties of carbonate apatite cement consisting of vaterite and dicalcium phosphate anhydrous	Cahyanto A, Maruta M, Tsuru K, Matsuya S, Ishikawa K	Key Engineering Materials	529-530		192-196	2013
生体構造学	Altered dynamics in the renal lymphatic circulation of type 1 and type 2 diabetic mice.	Uchiyama T, Takata S, Ishikawa H, Sawa Y	Acta Histochemica et Cytochemica	46	2	97-104	2013

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
生体構造学	Inhibition of extracellular signal-regulated kinase downregulates claudin-2 expression and alters paracellular permeability in mouse rectum CMT93-II cells.	Inai T, Kitagawa N, Hatakeyama Y, Ikebe T, Iida H, Fujita M	Tissue and Cell	45	3	175-182	2013
	Evaluation of pathogenicity of candida albicans in germination-ready states using a silkworm infection model.	Matsumoto H, Nagao J, Cho T, Kodama J	Medical Mycology Journal	54	2	131-140	2013
	Cell viabilities and biodegradation rates of DNA/protamine complexes with two different molecular weights of DNA.	Mori N, Ohno J, Sakagami R, Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Biomedical Materials Research. Part B, Applied Biomaterials	101	5	743-751	2013
	Lupus-like oral mucosal lesions in mercury-induced autoimmune response in brown norway rats.	Seno K, Ohno J, Ota N, Hirofuji T, Taniguchi K	BMC Immunology	14		47	2013
	Risk factors to cause tooth formation anomalies in chemotherapy of paediatric cancers.	Nishimura S, Inada H, Sawa Y, Ishikawa H	European Journal of Cancer Care	22	3	353-360	2013
	Quantitative evaluation of myofibroblast apoptosis during wound healing in rat palate after post-operative administration of basic fibroblast growth factor (bFGF).	Hata Y, Ishikawa H, Ueki T, Kajii T, Tamaoki S, Tsuruga E, Sawa Y, Taniguchi K	Acta Odontologica Scandinavica	71	6	1501-1507	2013
	Expression of toll-like receptor 4 in glomerular endothelial cells under diabetic conditions.	Takata S, Sawa Y, Uchiyama T, Ishikawa H	Acta Histochemica et Cytochemica	46	1	35-42	2013
	Involvement of IP3-receptor activation in endothelin-1-induced Ca(2+) influx in rat pulmonary small artery.	Kato K, Okamura K, Hatta M, Morita H, Kajioaka S, Naito S, Yamazaki J	European Journal of Pharmacology	720	1-3	255-263	2013
	Association of caspase-14 and filaggrin expression with keratinization of the oral mucosa and reconstruction culture rat models.	Murakami H, Okamura K, Aoki S, Sakagami R, Yamazaki J	Journal of Periodontal Research			doi: 10.1111/jre.12152	2013
	Distribution of podoplanin-expressing cells in the mouse nervous systems	Tomooka M, Kaji C, Kojima H, Sawa Y	Acta Histochemica et Cytochemica	46	6	171-177	2013
	Immunohistochemical study of lysosome-associated membrane proteins during periodontal ligament development	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y	Journal of Hard Tissue Biology	22	2	233-240	2013
	Matrix metalloproteinase-2 degrades fibrillin-1 and fibrillin-2 of oxytalan fibers in the human eye and periodontal ligaments in vitro.	Kawagoe M, Tsuruga E, Oka K, Sawa Y, Ishikawa H	Acta Histochemica et Cytochemica	46	5	153-159	2013
	In vitro and in vivo expression of aldehyde dehydrogenase 1 in oral squamous cell carcinoma.	Ota N, Ohno J, Seno K, Taniguchi K, Ozeki S	International Journal of Oncology	44	2	435-442	2014
Proteolytic and non-proteolytic activation of keratinocyte-derived latent TGF-β1 induces fibroblast differentiation in a wound-healing model using rat skin.	Hata S, Okamura K, Hatta M, Ishikawa H, Yamazaki J	Journal of Pharmacological Sciences	124		230-243	2014	
細胞分子生物学	A novel inhibitory mechanism of nitrogen-containing bisphosphonate on the activity of Cl <sup>-</sup> extrusion in osteoclasts.	Ohgi K, Kajiji H, Okamoto F, Nagaoka Y, Onitsuka T, Nagai A, Sakagami R, Okabe K	Naunyn-Schmiedeberg's Archives of Pharmacology	386	7	589-598	2013
	Involvement of IP3-receptor activation in endothelin-1-induced Ca(2+) influx in rat pulmonary small artery.	Kato K, Okamura K, Hatta M, Morita H, Kajioaka S, Naito S, Yamazaki J	European Journal of Pharmacology	720	1-3	255-263	2013
	Association of caspase-14 and filaggrin expression with keratinization of the oral mucosa and reconstruction culture rat models.	Murakami H, Okamura K, Aoki S, Sakagami R, Yamazaki J	Journal of Periodontal Research			doi: 10.1111/jre.12152	2013
	The potential role of transient receptor potential type A1 as a mechanoreceptor in human periodontal ligament cells.	Tsutsumi T, Kajiji H, Fukawa T, Sasaki M, Nemoto T, Tsuzuki T, Takahashi Y, Fujii S, Maeda H, Okabe K	European Journal of Oral Sciences	121	6	538-544	2013

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
細胞分子生物学	Proteolytic and non-proteolytic activation of keratinocyte-derived latent TGF-β1 induces fibroblast differentiation in a wound-healing model using rat skin.	Hata S, Okamura K, Hatta M, Ishikawa H, Yamazaki J	Journal of Pharmaceutical Sciences	124		230-243	2014
先端科学研究センター	Age-dependent accumulation of 8-oxoguanine in the DNA and RNA in various rat tissues.	Nie B, Gan W, Shi F, Hu GX, Chen LG, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Oxidative Medicine and Cellular Longevity			doi: 10.1155/2013/303181.	2013
再生医学研究センター	Cell viabilities and biodegradation rates of DNA/protamine complexes with two different molecular weights of DNA.	Mori N, Ohno J, Sakagami R, Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Biomedical Materials Research. Part B, Applied Biomaterials	101	5	743-751	2013
	Osteogenic evaluation of DNA/Protamine complex paste in rat cranial defects	Shinozaki Y, Yanagi T, Yamaguchi Y, Kido H, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	22	4	401-408	2013
老化制御研究センター	Search for proteins required for accurate gene expression under oxidative stress: roles of guanylate kinase and RNA polymerase.	Inokuchi H, Ito R, Sekiguchi T, Sekiguchi M	The Journal of Biological Chemistry	288	46	32952-32962	2013
口腔医療センター	Effect of mouth cleaning with hinokitiol-containing gel on oral malodor: a randomized, open-label pilot study.	Iha K, Suzuki N, Yoneda M, Takeshita T, Hirofuji T	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontology	116	4	433-439	2013
	Supervised machine learning-based classification of oral malodor based on the microbiota in saliva samples.	Nakano Y, Takeshita T, Kamio N, Shiota S, Shibata Y, Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T, Yamashita Y	Artificial Intelligence in Medicine	60	2	97-101	2014
	Effects of S-PRG eluate on oral biofilm and oral malodor.	Suzuki N, Yoneda M, Haruna K, Masuo Y, Nishihara T, Nakanishi K, Yamada K, Fujimoto A, Hirofuji T	Archives of Oral Biology	59	4	407-413	2014

## 2.症例報告

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
咬合修復学	A resin-bonded connector with a cast bolt incorporated with an existing adjacent pontic: a case report	Shimizu H, Takahashi Y, Kurtz KS	Asian Pacific Journal of Dentistry	13		1-4	2013
総合医学	Systemic vascular phenotypes of Loey's-Dietz syndrome in a child carrying a de novo R381P mutation in TGFBR2: a case report.	Uike K, Matsushita Y, Sakai Y, Togao O, Nagao M, Ishizaki Y, Nagata H, Yamamura K, Torisu H, Hara T	BMC Research Notes	6		456	2013
	Regression of tumoral calcinosis after the appropriate control of a deranged mineral and bone metabolism, in conjugation with cinacalcet hydrochloride treatment, in a chronic hemodialysis patient.	Yamada S, Yoshitomi R, Tsuruya K	Therapeutic Apheresis and Dialysis	17	3	348-349	2013
	Decreased expression of calcium-sensing receptor and parafibromin in secondary hyperparathyroidism with an abnormal whole PTH/intact PTH ratio	Yamada S, Taniguchi M, Tokumoto M, Tsuruya K, Iida M	Clinical Kidney Journal	6	4	429-432	2013
	Slowly progressive and painless thoracic aortic dissection presenting with a persistent Fever in an elderly patient: the usefulness of combined measurement of biochemical parameters.	Yamada S, Tokumoto M, Ohkuma T, Kansui Y, Wakisaka Y, Uchizono Y, Ooboshi H	Case Reports in Medicine			doi: 10.1155/2013/498129	2013
生体構造学	Solid variant of keratocystic odontogenic tumor of the mandible: report of a case with a clear cell component and review of the literature.	Kawano K, Okamura K, Kashima K, Matsuo K, Takahashi Y, Yamamoto N, Kono T, Kawamura K	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontology	116	5	e393-e398	2013

## [福岡医療短期大学]

### 1.原著

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
保健福祉学科	Anna Karenina movie in a mirror of english language education	Nikandrov N, Takase F	STEM Journal	14	2	107-134	2013

## 別表 2 再生医学研究センター 平成 24 年度研究成果報告会プログラム

平成 25 年 5 月 30 日 (木) 13 : 00 - 18 : 30

福岡歯科大学 本館 504 講義室

13:00-13:10	挨拶
13:10-13:30	「炭酸アパタイト系骨補填材の創製」 松家 茂樹 (歯科医療工学講座生体工学分野)
13:30-13:50	「DNA/プロタミン複合体の骨形成能」 福島 忠男 (再生医学研究センター)
13:50-14:10	「分子ヒーターによる生体調和型温熱治療デバイスの創製」 川口 稔 (歯科医療工学講座材料工学分野)
14:10-14:30	「プロタミンペプチドの抗真菌活性と応用へのアプローチ」 長 環 (機能生物化学講座感染生物学分野)
14:30-14:50	「口腔粘膜上皮の細胞間透過性の研究 - HaCaT 細胞の二次元培養によるタイト結合形成系の確立 -」 稲井 哲一郎 (生体構造学講座機能構造学分野)
14:50-15:05	休憩
15:05-15:25	「Sr 含有試作 Bioactive glass (BAG) の骨形成能に対するマイクロ CT を用いた評価」 泉 利雄 (口腔治療学講座歯科保存学分野)
15:25-15:45	「象牙質-歯髄複合体再生療法の確立を目的とした象牙芽細胞分化誘導法の検討」 諸富 孝彦 (口腔治療学講座歯科保存学分野)
15:45-16:05	「ジルコニアインプラントの表面改質について-表面性状が骨芽細胞の分化に及ぼす影響-」 城戸 寛史・谷口 祐介 (咬合修復学講座口腔インプラント学分野)
16:05-16:25	「線維芽細胞三次元培養シートを用いた石灰化物形成に向けての研究」 山崎 純 (細胞分子生物学講座分子機能制御学分野)
16:25-16:45	「歯髄創傷部における bFGF の象牙質形成促進機構の解明」 阿南 壽 (口腔治療学講座歯科保存学分野)
16:45-17:00	休憩
17:00-17:15	「自己硬化性 TTCP セメントの調製」 丸田 道人 (歯科医療工学講座生体工学分野)
17:15-17:30	「ビスホスフォネート系薬剤の投与がビタミン D 欠乏ラットのインプラント周囲骨におよぼす影響」 山本 勝己 (咬合修復学講座口腔インプラント学分野)
17:30-17:45	「リン過負荷が慢性腎臓病における炎症、栄養障害および心血管合併症を促進する機序の解明」 山田 俊輔 (総合医学講座内科学分野)
17:45-18:00	「マウス臼歯再植歯モデルにおける歯根膜の組織学的解析」 田村 翔悟 (成長発達歯学講座成育小児歯科学分野)
18:00-18:15	「ハイドロキシアパタイトターゲットを用いたインプラント表面へのスパッタリング処理の効果」 坂井 拓弥 (咬合修復学講座口腔インプラント学分野)
18:15-18:30	「咬合過重下における粗面ジルコニアインプラントの周囲組織の反応」 安野 貴美恵 (咬合修復学講座口腔インプラント学分野)
閉会の挨拶	

別表3 老化制御研究センター 計画研究の分担研究者と研究課題

所属・職名	研究者名	分担課題
生化学・教授	早川 浩	老化抑制の機構の解明
先端科学研究センター・教授	関口 睦夫	ゲノム安定性と老化の制御
分子機能制御学・教授	日高 真純	細胞死と細胞老化の制御
病態構造学・教授	谷口 邦久	口腔がんの転移抑制
生化学・教授	梅津 桂子	老化過程におけるゲノム再編
口腔外科学・教授	池邊 哲郎	ゲノム酸化と老化の抑制
咬合修復学・教授	佐藤 博信	老化の個体差のメカニズム解明
細胞生理学・教授	岡部 幸司	骨代謝性疾患の病態生理
機能構造学・教授	沢 禎彦	疾患に対する生体のゲノム応答
内科学・教授	大星 博明	脳血管障害の病態と老化
眼科学・教授	川野 庸一	免疫異常の抑制
口腔治療学・教授	坂上 竜資	ゲノム安定性と老化の制御
総合歯科学・教授	廣藤 卓雄	高齢者の口腔疾患の制御
口腔医療センター・教授	米田 雅裕	老化における生体防御
客員教授	井口 八郎	酸化ヌクレオチドと遺伝情報発現異常

## 別表 4 平成 25 年度地域貢献一覽表

実施事業	内 容
運動場 テニスコート 体育館の開放	地元ソフトボールチーム、野球チーム、子供ラグビークラブを始め早良区壮年ソフトボール大会等、ほぼ毎週運動場、テニスコート、ラグビー場、体育館等体育施設の地域への開放を行った。
公園清掃	田新町が町内行事として月 1 回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎回 3 名参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操の指導を行った。
学園祭での交流	田村校区、四箇田団地の子供会で組織するダンスチーム、保育園で指導している地域の太鼓演奏が学園祭にゲスト出演し、イベント会場を盛り上げた。また地域団体が学園祭に模擬店を出店した。
福岡医療短期大学 教員ボランティア 活動	地域交流並びに地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的開催されている地元田新町老人会「親和会」の集いに短大教員並びに専攻科学生が毎月担当を決めて参加し、情報提供を行っている。平成 25 年度は計 12 回参加した。

## 別表5 平成25年度公開講座一覧表

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
出前講座	平成25年4月から平成26年3月まで (市内公民館、小学校等)	市内公民館、小学校などを対象に、本学の教授、准教授等が「心と体・口・歯の健康の話」をテーマに、29箇所の出前講義を行った。
平成25年度福岡歯科大学臨床セミナー	平成25年4月から26年3月まで (福岡歯科大学本館5階504講義室他)	医療関係者を対象に通算26回実施した。 参加者延べ1,956名(臨床研修歯科医を含む)。
福岡市民の歯を守る集い	平成25年6月2日 (福岡県歯科医師会館)	福岡市主催。一般対象の相談コーナー(口臭、口腔外科、小児歯科、禁煙)を開設。 参加者360名
老化制御研究セミナーシンポジウム	平成25年9月9日 (福岡歯科大学)	老化制御に関する研究を行っている学外シンポジスト2名、学内シンポジスト2名の講演 参加者約50名
福岡歯科大学公開講座	平成25年9月29日 (よみうりプラザ)	「子どもの笑顔を守る ー医師・歯科医師のおすすめトータルケアー」 ① 「ワクチンで防げる病気から、子どもたちを守ろう！」 ② 「乳幼児からできる歯磨き以外のむし歯予防！」 参加者74名
勝鷹夢祭り	平成25年10月13日 (早良区商店街)	協賛団体として参加 「お口と体の無料健康相談・血流度ストレス度無料測定」 参加者151名
「健康まるごと福岡学園」	平成25年10月26日 ～27日 (福岡学園)	1. からだの科学展 2. 講演会「親子の絆～子どもの村福岡の活動から学んだこと」 3. 医科ミニ講座・歯科無料相談 4. 介護施設見学・介護無料相談 5. 短大企画「口から始める介護予防」 各イベント参加者合計2,781人
七隈線沿線3大学合同シンポジウム	平成25年11月3日 (福岡大学病院)	メインテーマ「高齢化社会と健康ー快適な生活を送るためにー」 第一部講演、第二部公開討論(参加者からの質問に回答する形式)。 本学、福岡大学、中村学園大学合同開催。参加者204名
福岡歯科大学学会総会特別講演	平成25年12月15日 (福岡歯科大学)	テーマ「口腔から身体機能を考える」 5名のシンポジストによる講演後質疑応答 参加者292名

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
戦略的大学連携支援事業 口腔医学シンポジウム	平成 26 年 1 月 12 日 (福岡歯科大学)	テーマ「これからの医療における口腔ケアの役割」 5名のシンポジストによる講演後、講演者による討論 参加者 134名
再生医学研究センターシンポジウム	平成 26 年 2 月 6 日 (福岡歯科大学)	再生医療の研究を行っている学外シンポジスト 2 名による講演 参加者 27 名
大学院特別講義	平成 25 年 5 月 21 日 ～平成 26 年 2 月 6 日 (福岡歯科大学 504 講義室他)、全 13 回(内 2 回は再生医学研究センターシンポジウムと老化制御研究センターシンポジウム)	EAP-Goia、メリーランド大学、ベルン大学、上海交通大学、日本大学、新潟大学、延世大学、中国医科大学、東北大学大学院、ブリティッシュコロンビア大学、ノースキャロライナ大学、慶熙大学校歯科大学等の教授らによる講義が行われた。
口腔インプラントセミナー (生涯研修)	平成 25 年 5 月 12 日 ～平成 26 年 2 月 23 日 (福岡歯科大学 501 講義室)	6つのテーマ別講習会 参加者延べ 103 名
口腔インプラント中級講習会 (生涯研修)	平成 25 年 5 月 26 日 ～平成 25 年 9 月 29 日 (口腔医療センター)	テーマ「エビデンスに基づく口腔インプラント治療」 全 5 回シリーズの研修 参加者 18 名
口腔インプラント初級講習会 (生涯研修)	平成 25 年 10 月 13 日 ～平成 25 年 11 月 4 日 (福岡歯科大学)	実習を多く取り入れた実践的研修 全 4 回シリーズの研修 参加者 18 名
歯科臨床に役立つ医科の知識 (生涯研修)	平成 25 年 10 月 6 日 ～平成 25 年 12 月 8 日 (口腔医療センター)	医師と歯科医師が連携して行う講義形式の研修 全 4 回シリーズの研修 参加者 21 名
保存・歯周治療の基本と応用 (生涯研修)	平成 26 年 1 月 19 日 ～平成 26 年 3 月 9 日 (口腔医療センター)	実習を多く取り入れた実践的研修 全 3 回シリーズの研修 参加者 7 名
口腔外科・全身管理・画像診断学講習会 (生涯研修)	平成 26 年 1 月 26 日 ～平成 26 年 3 月 23 日 (口腔医療センター)	口腔外科、麻酔科、放射線科の教員による講習会 全 5 回シリーズの講習会 参加者 15 名
福岡医療短期大学公開講座	平成 25 年 10 月 6 日 (福岡医療短期大学)	テーマ「口から食べる」を支援する… 生活の質を上げる多職種連携… 参加者 149 名

## 別表6 平成25年度海外研修派遣一覧表

### 第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
総合歯科学講座	教授	内 藤 徹	講演等	韓国（ソウル）	H. 25. 04. 06	H. 25. 04. 09
総合歯科学講座	講師	谷 口 奈 央	引率	中国（上海）	H. 25. 04. 21	H. 25. 04. 28
生体構造学講座	教授	稲 井 哲一郎	引率	中国（瀋陽）	H. 25. 04. 21	H. 25. 04. 28
口腔治療学講座	講師	諸 富 孝 彦	引率	中国（瀋陽）	H. 25. 04. 21	H. 25. 04. 28
口腔医療センター	教授	勝 山 英 明	学会	スイス、モナコ（ベルン、モナコ）	H. 25. 04. 22	H. 25. 05. 05
歯科医療工学講座	講師	丸 田 道 人	引率	韓国（ソウル）	H. 25. 04. 28	H. 25. 05. 04
咬合修復学講座	講師	森 永 健 三	学会等	アメリカ（ラスベガス）	H. 25. 05. 15	H. 25. 05. 19
成長発達歯学講座	講師	岡 暁 子	学会	フランス（ラ・ロンド・レ・モール）	H. 25. 05. 25	H. 25. 06. 02
総合医学講座	助教	大 隈 俊 明	学会	デンマーク（コペンハーゲン）	H. 25. 05. 26	H. 25. 06. 02
成長発達歯学講座	講師	岡 暁 子	学会	韓国（ソウル）	H. 25. 06. 13	H. 25. 06. 15
成長発達歯学講座	教授	尾 崎 正 雄	学会等	韓国（ソウル）	H. 25. 06. 13	H. 25. 06. 16
成長発達歯学講座	大学院 1学年	板 家 智	学会	韓国（ソウル）	H. 25. 06. 13	H. 25. 06. 16
成長発達歯学講座	大学院 1学年	戸 田 雅 子	学会	韓国（ソウル）	H. 25. 06. 13	H. 25. 06. 16
成長発達歯学講座	大学院 3学年	吉 良 迪 子	学会	韓国（ソウル）	H. 25. 06. 13	H. 25. 06. 16
診断・全身管理学講座	教授	湯 浅 賢 治	学会	ノルウェー（ベルゲン）	H. 25. 06. 22	H. 25. 06. 30
総合歯科学講座	教授	内 藤 徹	講演	韓国（ソウル）	H. 25. 06. 24	H. 25. 06. 27
口腔治療学講座	大学院 4学年	森 南 奈	学会	イタリア（ミラノ）	H. 25. 07. 07	H. 25. 07. 11
総合医学講座	教授	井 上 敏 生	学会	アメリカ（ハリウッド）	H. 25. 07. 16	H. 25. 07. 22
口腔保健学講座	准教授	嶋 田 香	学会	アメリカ （ニューヨーク、ラスベガス）	H. 25. 07. 17	H. 25. 07. 24
咬合修復学講座	助教	川 口 智 弘	打合せ	フィンランド（トゥルク）	H. 25. 08. 26	H. 25. 09. 01
咬合修復学講座	大学院 4学年	長 谷 英 明	学会	イタリア（トリノ）	H. 25. 09. 16	H. 25. 09. 23
咬合修復学講座	教授	城 戸 寛 史	学会	トルコ（イスタンブール）	H. 25. 10. 02	H. 25. 10. 07
口腔医療センター	医員	原 賀 真理子	学会	トルコ（イスタンブール）	H. 25. 10. 02	H. 25. 10. 07
咬合修復学講座	大学院 2学年	谷 口 祐 介	学会	トルコ（イスタンブール）	H. 25. 10. 02	H. 25. 10. 07
咬合修復学講座	大学院 2学年	山 口 雄一郎	学会	トルコ（イスタンブール）	H. 25. 10. 02	H. 25. 10. 07
咬合修復学講座	大学院 3学年	佐 藤 絢 子	学会	トルコ（イスタンブール）	H. 25. 10. 02	H. 25. 10. 07
細胞分子生物学講座	講師	鍛冶屋 浩	学会	アメリカ（ボルチモア）	H. 25. 10. 03	H. 25. 10. 09
咬合修復学講座	大学院 4学年	堤 貴 司	学会	アメリカ（ボルチモア）	H. 25. 10. 03	H. 25. 10. 09
総合歯科学講座	講師	谷 口 奈 央	学会	ハンガリー（ブタペスト）	H. 25. 10. 08	H. 25. 10. 14
口腔・顎顔面外科学講座	講師	泉 喜和子	学会等	スペイン（バルセロナ）	H. 25. 10. 18	H. 25. 10. 28
咬合修復学講座	教授	佐 藤 博 信	講演	中国（天津市）	H. 25. 10. 19	H. 25. 10. 22
総合医科学講座	准教授	徳 本 正 憲	学会	アメリカ（アトランタ）	H. 25. 11. 06	H. 25. 11. 10
総合医科学講座	助教	山 田 俊 輔	学会	アメリカ（アトランタ）	H. 25. 11. 06	H. 25. 11. 10

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
総合医科学講座	助教	中村 晋之	学会	アメリカ (パロアルト、サンディエゴ、ワシントンDC)	H. 25. 11. 07	H. 25. 11. 16
咬合修復学講座	教授	城戸 寛史	学会	台湾 (タイペイ)	H. 25. 11. 21	H. 25. 11. 24
咬合修復学講座	大学院 2学年	谷口 祐介	学会	台湾 (タイペイ)	H. 25. 11. 21	H. 25. 11. 24
咬合修復学講座	研修医	白石 亮平	学会	台湾 (タイペイ)	H. 25. 11. 22	H. 25. 11. 24
総合医学講座	助教	大隈 俊明	学会	オーストラリア (メルボルン、シドニー)	H. 25. 11. 30	H. 25. 12. 06
成長発達歯学講座	教授	石川 博之	学会	台湾 (高雄)	H. 25. 12. 06	H. 25. 12. 09
口腔保健学講座	教授	埴岡 隆	学会	ギリシャ (アテネ)	H. 25. 12. 06	H. 25. 12. 13
口腔・顎顔面外科学講座	教授	大関 悟	医療支援	ミャンマー (ヤンゴン)	H. 25. 12. 21	H. 25. 12. 29
口腔・顎顔面外科学講座	講師	泉 喜和子	医療支援	ミャンマー (ヤンゴン)	H. 25. 12. 21	H. 25. 12. 29
診断・全身管理学講座	講師	富永 晋二	医療支援	ミャンマー (ヤンゴン)	H. 25. 12. 21	H. 25. 12. 29
看護部	看護師	前川 智子	医療支援	ミャンマー (ヤンゴン)	H. 25. 12. 21	H. 25. 12. 29
成長発達歯学講座	講師	岡 暁子	医療支援	ミャンマー (ヤンゴン)	H. 25. 12. 21	H. 25. 12. 29
総合医学講座	教授	大星 博明	学会	アメリカ (サンディエゴ)	H. 26. 02. 11	H. 26. 02. 16
総合医学講座	助教	中村 晋之	学会	アメリカ (サンディエゴ)	H. 26. 02. 11	H. 26. 02. 16
咬合修復学講座	教授	城戸 寛史	学会	アメリカ (シアトル)	H. 26. 03. 05	H. 26. 03. 10
咬合修復学講座	大学院 2学年	谷口 祐介	学会	アメリカ (シアトル)	H. 26. 03. 05	H. 26. 03. 10
咬合修復学講座	大学院 4学年	安野 貴美恵	学会	アメリカ (シアトル)	H. 26. 03. 05	H. 26. 03. 10

⑨第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

### 第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡医療短期大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
保健福祉学科	教授	高瀬 文広	学会	韓国 (ソウル)	H. 25. 05. 10	H. 25. 05. 12
歯科衛生学科	准教授	力丸 哲也	引率	韓国 (釜山)	H. 25. 10. 11	H. 25. 10. 13
歯科衛生学科	助教	石井 綾子	引率	韓国 (釜山)	H. 25. 10. 11	H. 25. 10. 13
歯科衛生学科	講師	貴島 聡子	引率	アメリカ (ロサンゼルス)	H. 25. 10. 22	H. 25. 11. 01
保健福祉学科	講師	古野 みはる	調査	ドイツ (デュッセルドルフ)	H. 26. 03. 22	H. 26. 03. 30

⑨第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表7 平成25年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修名	主催	場所	参加者
企画課	4/13-14	GSSNite <sup>レ</sup> ギ <sup>ナ</sup> ス <sup>ク</sup>	GSSNite実行委員会	東京	石橋幸
	4/18-19	自衛消防業務新規講習	日本消防設備安全センター	福岡	和才
	6/14	経常費補助金説明会	私学事業団	福岡	和才
	7/7	コミュニティ政策学会	コミュニティ政策学会、 西部地区五大学連携懇話会	福岡	石橋慶
	8/22-23	初任者研修会	日本私立大学協会九州支部	福岡	今村
	H26/1/17	地の拠点整備事業説明会	文部科学省	東京	石橋慶
	H26/1/27	学校法人の運営等に関する協議会	文部科学省	東京	石橋慶
総務課	4/19	学校基本調査説明会	文部科学省	福岡	松添
	4/19	私立大学経営・財政基盤強化に関する協議会	日本私立大学協会	東京	香月
	4/24	労働行政の最新動向と行政指導への対応策	労働調査会	鹿児島	赤坂
	4/26	大学・短期大学評価セミナー	日本高等教育評価機構	大阪	木下
	6/13-14	経常費補助金説明会	私学事業団	福岡	赤坂
	6/13-14	経常費補助金説明会	私学事業団	福岡	木下
	6/24	平成25年度「改正労働契約法に関する協議会」	私立大学協会	東京	赤坂
	7/4	ロジカルライティングセミナー	九州生産性本部	福岡	田島
	7/19	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	福岡	和才
	7/19	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	福岡	木下
	8/12	第4回早良区城南区国際化対策連絡協議会総会	早良区城南区国際化対策連絡協議会	福岡	香月
	8/22-23	初任者研修会	日本私立大学協会九州支部	福岡	山田
	8/30	給与実務研修会	日本人事行政研究所	東京	田島
	9/6	科研費助成事業公募要領等説明会	文部科学省	福岡	木下
	10/21	公的研究費の管理・監査に関する研修会	文部科学省	東京	和才
	10/24	給与実務研修会	日本人事行政研究所	東京	柳
	10/25	民法の基礎知識・企業における職場巡視のポイント	日本労務研究会	福岡	田島
	11/14	平成25年分給与所得者の年末調整説明会	税務署	福岡	田島
	11/15	第3回人事・労務情報交換会	九州産業大学	福岡	柳
	11/15	第3回人事・労務情報交換会	九州産業大学	福岡	田島
	11/21	労働法実務講座	九州生産性本部	福岡	松添
	11/22	九州地区私立大学事務連絡協議会		熊本	柳
	12/11	コンプライアンス最前線	SPクラブ	福岡	和才
	12/13	大学IRコンソーシアムの衝撃	高等教育情報センター	東京	和才
	12/13	福岡地域高齢者雇用管理セミナー	福岡中央公共職業安定所	福岡	柳
	H26/1/23	人権・同和企業セミナー	福岡市人権同和問題企業研修推進会議	福岡	香月
H26/2/4-6	主任・係長基礎講座	九州生産性本部	福岡	柳	
財務課	4/19	新政権文部科学関係予算と今後の政策動向	日本計画研究所	東京	本山
	6/14	経常費補助金説明会	私学事業団	福岡	柳
	7/19	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	福岡	松添
	7/19	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	福岡	今林
	11/14	平成25年分給与所得者の年末調整説明会	税務署	福岡	大西

所属	受講日	研修名	主催	場所	参加者
財務課	H26/2/24-25	第11回事務職員研修会	私立歯科大学協会	東京	豊福
施設課	10/10	平成25年度 電気主任技術者実務セミナー	九州電気保安協会	福岡	大神
	11/19	学校等における省エネルギー対策に関する講習会	文部科学省	福岡	梅村
学務課	6/5	大学入試センター試験研究連絡協議会大会	大学入試センター	東京	石田
	6/14	経常費補助金説明会	私学事業団	福岡	箱田
	6/14	実践！！苦情クレーム対応研修会	エスピーネットワーク	福岡	青木
	7/9-12	学生生活指導主務者研修会	日本私立大学協会	大阪	箱田
	7/12	3ステップで3学ぶ「事務ミスゼロ」の仕事術	九州生産性本部	福岡	三木
	9/5-6	中堅職員研修会	私大協九州支部	福岡	麻生
	10/22	大学入試センター試験試験場設定大学連絡協議会	大学入試センター	福岡	井上
	10/22	大学入試センター試験試験場設定大学連絡協議会	大学入試センター	福岡	松添
	10/30	OSCE全国説明会	共用試験実施評価機構	東京	箱田
	11/19-20	管理者基礎セミナー	九州生産性本部	福岡	箱田
情報図書館課	5/28-30	サーバ仮想化実践トレーニング	NECラーニング	大阪	亀井
	6/6-7	オープンアクセスサミット2013	国立情報学研究所	東京	青木
	6/6-7	オープンアクセスサミット2013	国立情報学研究所	東京	亀井
	6/21	JAIRO Cloudシステム講習	国立情報学研究所	京都	亀井
	7/5	第30回医学情報サービス研究大会	私立大学図書館協会	沖縄	檜崎
	7/5	第30回医学情報サービス研究大会	私立大学図書館協会	沖縄	麻生
	7/24-26	学術情報ウェブサービス担当者研修	国立情報学研究所	福岡	白水
	8/29-30	総会・研究大会	私立大学図書館協会	名古屋	青木
	9/5	西地区部会九州地区研究会	私立大学図書館協会	福岡	青木
	9/5	西地区部会九州地区研究会	私立大学図書館協会	福岡	檜崎
	9/10	西地区部会九州地区研究会研究発表	私立大学図書館協会	岡山	白水
	10/18	九州地区医学図書館協議会総会	九州地区医学図書館協議会	鹿児島	青木
	10/21-22	インターネットプロトコル解説	富士通ラーニングメディア	福岡	上野
	12/18-19	システム管理者のためのWindowsServer2008 AD編	富士通ラーニングメディア	福岡	上野
H26/1/15-17	WindowsServer2012研修	Global Knowledge	東京	亀井	
病院事務課	4/19	診療情報管理研究スクリーニング	日本病院会	福岡	田村
	6/14	実践！！苦情クレーム対応研修会	エスピーネットワーク	福岡	藤木
	7/5-6	全国私立大学歯学部附属病院長会議	日本歯科大学新潟生命歯学部	福岡	福永
	9/5-6	中堅職員研修会	私大協九州支部	福岡	石橋
	9/18	第1回経営管理研究会		福岡	福永
	11/7-8	第35回附属病院管理運営事務研修会	日本私立歯科大学協会	岐阜	福永
	11/7-8	第35回附属病院管理運営事務研修会	日本私立歯科大学協会	岐阜	藤木
	H26/2/24-25	第11回事務職員研修会	私立歯科大学協会	東京	原田

別表8 平成25年度学内研修一覧

実施日	研修区分	研修名	内 容	出席者数
5月25日	階層別	課長補佐研修	「管理職の基本と能力の向上 について」	7名
5月27日	専門	ハラスメント 講演会	「職場のハラスメント防止 について」	108名 (教職員)
6月29日	階層別	初任者研修	「大学職員の基礎知識」	16名
9月4日 ～11日	階層別	初任者研修	「他課研修」	2名
6月15日	階層別	一般職員研修	「コスト削減とその効果」	11名
7月20日	階層別	係長・主任研修	「私学を取り巻く状況と 本学の課題」	21名
10月4日 9日	専門	ICTスキルアップ <sup>o</sup> 研修	「Excel研修」	7名
11月15日	専門	ハラスメント 相談員研修会	「ハラスメント相談員研修会」	13名 (教職員)
11月16日	階層別	課長研修	「口腔医学という学術体系の 構築に向けて」	10名

別表 9 平成25年度 戦略的大学連携支援事業  
短期研修派遣参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
9/11-13	戦略的大学連携事業 職員短期研修派遣	神奈川歯科大学	神奈川	浅田主任

別表 10 平成25年度 西部地区五大学連携懇話会  
研修参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
5/17	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	亀井係長
5/18	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	石田主任
9/9	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡	石橋幸係員

# 別表 1 1 平成 2 5 年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡歯科大学】

(単位：千円)

区 分 種 類	平 成 2 4 年 度				平 成 2 5 年 度				前 年 度 比 較 増 減 (H25-H24)			
	申請 件数	申請額	内定額		申請 件数	申請額	内定額		申請 件数	申請額	内定額	
			直接経費	間接経費			直接経費	間接経費			直接経費	間接経費
新学術領域研究	0	0	0	0	0	0	2,200	660	0	0	2,200	660
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定領域研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究(A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0	0	2,200	660	0	0	2,200	660
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文科省合計	0	0	0	0	0	0	2,200	660	0	0	2,200	660
基盤研究(S)	1	40,000	0	0	0	0	0	0	-1	-40,000	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(A)	2	58,600	0	0	0	0	0	0	-2	-58,600	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	10	83,097	1	9,000	10	89,908	1	6,300	1	89,908	1	6,300
	4	11,500	4	11,500	4	12,000	4	12,000	4	12,000	4	12,000
基盤研究(C)	49	91,782	11	18,100	46	96,095	10	14,400	4,320	18,720	-3	4,313
	13	12,400	13	12,400	20	20,400	20	20,400	6,120	26,520	7	8,000
挑戦的 萌芽研究	19	47,017	2	3,000	22	49,389	4	7,600	2,280	9,880	3	2,372
	3	3,200	3	3,200	2	2,500	2	2,500	750	3,250	-1	-700
若手研究(B)	77	150,026	7	10,300	63	26,071	7	10,700	3,210	13,910	-14	-123,955
	8	11,400	8	11,400	9	8,700	9	8,700	2,610	11,310	1	-2,700
研究活動 スタート支援	13	17,880	1	900	0	0	0	1,100	330	1,430	-13	-17,880
	2	2,400	2	2,400	1	400	0	0	0	0	-1	-2,000
小 計	171	488,402	22	41,300	141	261,463	23	40,100	12,030	52,130	-30	-226,939
	30	40,900	30	40,900	36	44,000	35	43,600	13,080	56,680	6	3,100
学振合計	201	529,302	52	82,200	177	305,463	58	83,700	25,110	108,810	-24	-223,839
新 規	171	488,402	22	41,300	141	261,463	24	42,300	12,690	54,990	-30	-226,939
	30	40,900	30	40,900	36	44,000	35	43,600	13,080	56,680	6	3,100
継 続	30	40,900	30	40,900	36	44,000	35	43,600	13,080	56,680	6	3,100
総 計	201	529,302	52	82,200	177	305,463	59	85,900	25,770	111,670	-24	-223,839

# 別表 1 2 平成 2 5 年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡医療短期大学】

(単位：千円)

区 分 種 類	平成 2 4 年 度						平成 2 5 年 度						前 年 度 比 較 増 減 (H25-H24)					
	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		計	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		計	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		
				直接経費	間接経費					直接経費	間接経費					直接経費	間接経費	
特別推進研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
若手研究 (A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小 計	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
文科省合計																		
基盤研究 (S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基盤研究 (A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基盤研究 (B)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基盤研究 (C)	新規	1	952	0	0	0	1	1,194	0	0	0	0	0	242	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
挑戦的萌芽研究	新規	10	19,316	2	2,200	660	9	17,620	2	2,200	660	2,860	-1	-1,696	0	0	0	
	継続	2	1,400	2	1,400	420	3	1,700	3	1,700	510	2,210	1	300	1	300	90	
若手研究 (B)	新規	6	5,154	1	500	150	4	7,836	1	600	180	780	-2	2,682	0	100	30	
	継続	0	0	0	0	0	1	1,200	1	1,200	360	1,560	1	1,200	1	1,200	360	
(注) 研究活動 スタート支援	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小 計	新規	17	25,422	3	2,700	810	14	26,650	3	2,800	840	3,640	-3	1,228	0	100	30	
	継続	2	1,400	2	1,400	420	4	2,900	4	2,900	870	3,770	2	1,500	2	1,500	450	
学振合計																		
合 計	新規	17	25,422	3	2,700	810	14	26,650	3	2,800	840	3,640	-3	1,228	0	100	30	
	継続	2	1,400	2	1,400	420	4	2,900	4	2,900	870	3,770	2	1,500	2	1,500	450	
総合計																		
	新規	19	26,822	5	4,100	1,230	18	29,550	7	5,700	1,710	7,410	-1	2,728	2	1,600	480	
	継続	19	26,822	5	4,100	1,230	18	29,550	7	5,700	1,710	7,410	-1	2,728	2	1,600	480	

## 別表 1 3 資金収支総括表

(単位:千円)

科 目		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,562,538	3,419,725	3,350,050	3,022,215	3,001,143
	手 数 料 収 入	21,209	21,939	21,134	23,777	28,953
	寄 附 金 収 入	23,324	27,137	25,212	40,725	64,251
	補 助 金 収 入	1,220,852	597,966	361,121	385,796	809,882
	資 産 運 用 収 入	902,590	784,801	785,831	820,373	904,588
	資 産 売 却 収 入	537,770	1,532,840	1,478,924	1,066,045	1,219,790
	事 業 収 入	1,755,489	1,859,453	1,909,846	1,999,052	2,092,602
	雑 収 入	272,742	241,852	168,955	182,464	206,878
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	695,539	733,194	540,929	511,488	440,342
	そ の 他 の 収 入	8,960,965	4,983,108	4,870,258	9,381,107	9,676,320
	資金収入調整勘定	△ 1,934,052	△ 1,239,655	△ 1,070,351	△ 945,480	△ 1,133,562
	小 計	16,018,966	12,962,360	12,441,909	16,487,562	17,311,187
	前年度繰越支払資金	942,636	1,254,015	812,457	550,818	652,306
合 計	16,961,602	14,216,375	13,254,366	17,038,380	17,963,493	
支出の部	人 件 費 支 出	3,548,121	3,576,403	3,340,714	3,453,023	3,626,828
	教育研究経費支出	1,385,720	1,241,883	1,373,628	1,399,907	1,428,693
	管 理 経 費 支 出	218,168	208,472	216,146	235,897	226,962
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	965,748	125,645	228,176	251,120	78,056
	設 備 関 係 支 出	519,979	264,090	303,949	293,882	556,596
	資 産 運 用 支 出	9,722,997	7,521,713	6,901,783	10,912,490	11,260,554
	そ の 他 の 支 出	406,757	1,071,943	619,244	301,346	470,194
	資金支出調整勘定	△ 1,059,903	△ 606,231	△ 280,092	△ 461,591	△ 414,939
	小 計	15,707,587	13,403,918	12,703,548	16,386,074	17,232,944
	次年度繰越支払資金	1,254,015	812,457	550,818	652,306	730,549
	合 計	16,961,602	14,216,375	13,254,366	17,038,380	17,963,493

## 別表 1 4 消費収支総括表

(単位:千円)

科 目		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
消費収入の部	学生生徒等納付金(ア)	3,562,538	3,419,725	3,350,050	3,022,215	3,001,143
	手数料	21,209	21,939	21,134	23,777	28,953
	寄附金(イ)	35,374	41,623	42,039	51,473	71,162
	補助金(ウ)	1,220,852	597,966	361,121	385,796	809,882
	資産運用収入	902,590	784,801	785,831	820,373	904,588
	資産売却差額(エ)	0	0	0	0	0
	うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
	事業収入	1,755,489	1,859,453	1,909,846	1,999,052	2,092,602
	雑収入	272,742	241,852	478,151	182,635	207,067
	合 計 (オ)	7,770,794	6,967,359	6,948,172	6,485,321	7,115,397
	基本金組入額(カ)	△ 1,621,505	△ 2,659,119	△ 2,186,178	△ 2,745,421	△ 2,126,424
	（第1号基本金組入額）	△ 483,885	△ 531,889	△ 441,659	△ 332,811	△ 412,844
	（第2号基本金組入額）	△ 600,000	△ 600,000	△ 222,009	△ 600,000	0
	（第3号基本金組入額）	△ 537,620	△ 1,527,230	△ 1,522,510	△ 1,812,610	△ 1,713,580
（第4号基本金組入額）	0	0	0	0	0	
消費収入（オーカ）(キ)	6,149,289	4,308,240	4,761,994	3,739,900	4,988,973	
消費支出の部	人件費(ク)	3,400,470	3,409,596	3,254,359	3,307,536	3,518,941
	教育研究経費(ケ)	1,828,245	1,736,022	1,875,535	1,887,072	1,930,232
	うち、減価償却	442,618	498,174	498,425	486,617	501,123
	管理経費(コ)	239,164	237,577	244,931	266,221	256,788
	うち、減価償却	20,205	28,653	28,253	28,497	29,774
	借入金等利息(サ)	0	0	0	0	0
	資産処分差額(シ)	62,843	36,906	6,029	15,302	33,457
	うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
	うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)	60	4,054	7,252	264	237
消費支出合計(セ)	5,530,782	5,424,155	5,388,106	5,476,395	5,739,655	
当年度消費収入超過額（キーセ） (又は△当年度消費支出超過額)	618,507	△ 1,115,915	△ 626,112	△ 1,736,495	△ 750,682	
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)	4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283	1,555,663	
(何) 年度消費支出準備金繰入額	0	0	0	0	0	
(何) 年度消費支出準備金取崩額	0	0	0	0	0	
基本金取崩額	27,235	289	70,355	185,875	603	
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)	4,777,666	3,662,040	3,106,283	1,555,663	805,584	
帰属収支差額(オ)－(セ)	2,240,012	1,543,204	1,560,066	1,008,926	1,375,742	

別表 15 貸借対照表

(単位:千円)

科 目		資 産 の 部					負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部				
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
固定資産(a)		53,305,719	55,335,068	56,452,773	57,267,347	58,110,972	4,180,200	3,584,759	2,669,599	2,648,124	2,428,887
有形固定資産		11,431,306	11,266,188	11,243,389	11,273,345	11,355,175	2,250,043	2,097,127	1,693,087	1,557,038	1,428,039
うち、土地		2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	0	0	0	0	0
うち、建物		5,238,794	5,100,576	5,099,226	5,120,866	4,918,709	0	0	0	0	0
うち、構築物		209,738	196,521	184,230	172,542	201,634	2,225,021	2,058,214	1,663,416	1,517,929	1,410,042
うち、教育研究用機器備品		1,581,296	1,535,472	1,494,563	1,493,114	1,722,685	1,930,157	1,487,632	976,512	1,091,086	1,000,848
その他の固定資産(1)		41,874,413	44,068,880	45,209,384	45,994,002	46,755,797	712,739	746,094	549,529	497,108	449,682
うち、収益事業元入金		0	0	0	0	0	46,841,403	49,500,234	51,616,057	54,175,603	56,301,424
うち、減価償却引当特定資産		8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,000,000	8,000,000	21,321,663	21,853,264	22,224,568	22,371,504	22,783,745
流動資産(b)		2,493,550	1,411,965	939,166	1,112,043	1,424,923	8,200,000	8,800,000	9,022,009	9,622,009	9,622,009
うち、現金・預金(c)		1,254,015	812,457	550,818	652,306	730,549	420,000	420,000	420,000	420,000	420,000
うち、有価証券		0	0	0	0	0	4,777,666	3,662,040	3,106,283	1,555,663	805,584
その他の		1,239,535	599,508	388,348	459,737	694,374	0	0	0	0	0
合計(d)		55,799,269	56,747,033	57,391,939	58,379,390	59,535,895	55,799,269	56,747,033	57,391,939	58,379,390	59,535,895
							減価償却額の累積額の合計額				
							基本金未組入額(k)				
							496,380	78,378	38,069	106,401	35,274

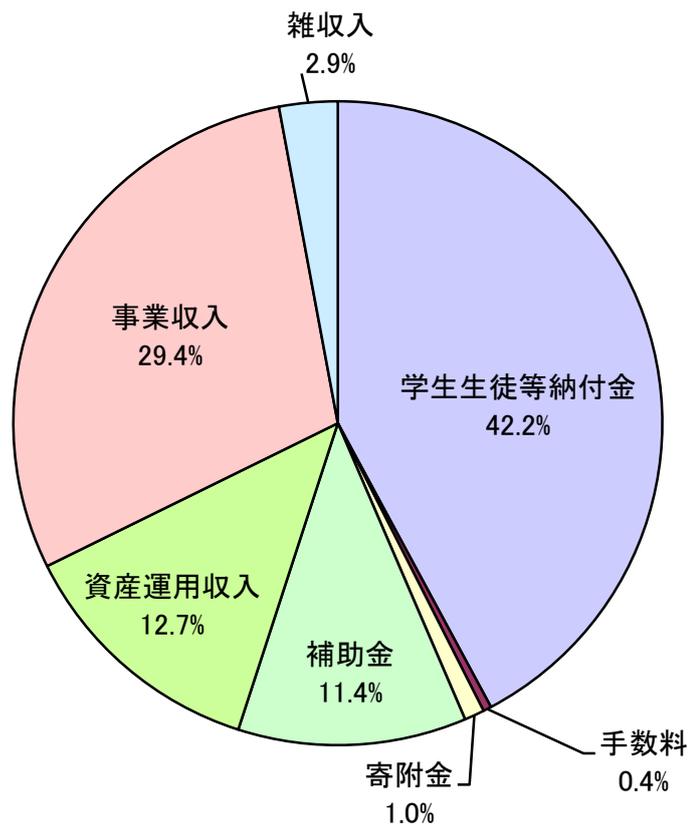
別表 1 6 財務比率表

分類	比 率	算 式 (×100)	評価	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額 (j)}}{\text{総 資 金 (e) + (i) + (j)}}$	△	8.6%	6.5%	5.4%	2.7%	1.4%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金 (i)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	△	99.0%	99.8%	99.9%	99.8%	99.9%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産 (a)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	▼	103.3%	104.1%	103.2%	102.8%	101.8%
	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産 (l)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	△	75.0%	77.7%	78.8%	78.8%	78.5%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産 (b)}}{\text{流 動 負 債 (g)}}$	△	129.2%	94.9%	96.2%	101.9%	142.4%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金 (c)}}{\text{前 受 金 (h)}}$	△	175.9%	108.9%	100.2%	131.2%	162.5%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	▼	7.5%	6.3%	4.7%	4.5%	4.1%
	負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	▼	8.1%	6.7%	4.9%	4.8%	4.3%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	△	109.0%	107.2%	105.9%	102.7%	101.4%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費 (ク)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	43.8%	48.9%	46.8%	51.0%	49.5%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費 (ケ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	23.5%	24.9%	27.0%	29.1%	27.1%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費 (コ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	3.1%	3.4%	3.5%	4.1%	3.6%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	71.2%	77.9%	77.5%	84.4%	80.7%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}$	▼	155.2%	158.6%	160.8%	181.2%	191.2%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	～	45.8%	49.1%	48.2%	46.6%	42.2%
	寄附金比率	$\frac{\text{寄 附 金 (イ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	0.5%	0.6%	0.6%	0.8%	1.0%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金 (ウ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	15.7%	8.6%	5.2%	5.9%	11.4%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額 (カ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	20.9%	38.2%	31.5%	42.3%	29.9%

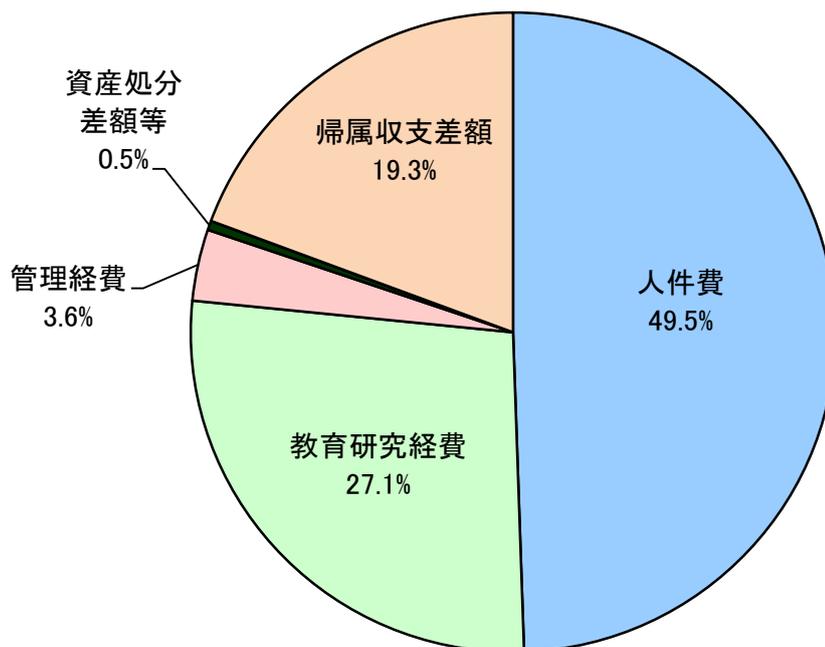
注) 評価：△高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

別表 1 7

25年度帰属収入構成比率

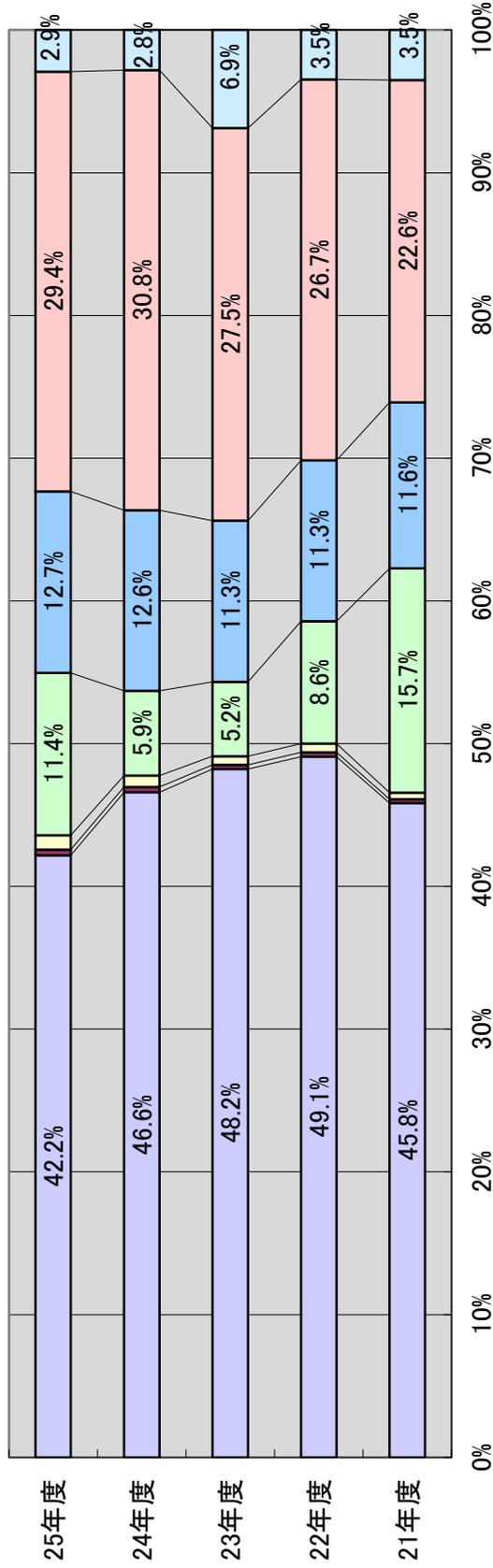


25年度帰属収入に対する消費支出構成比率



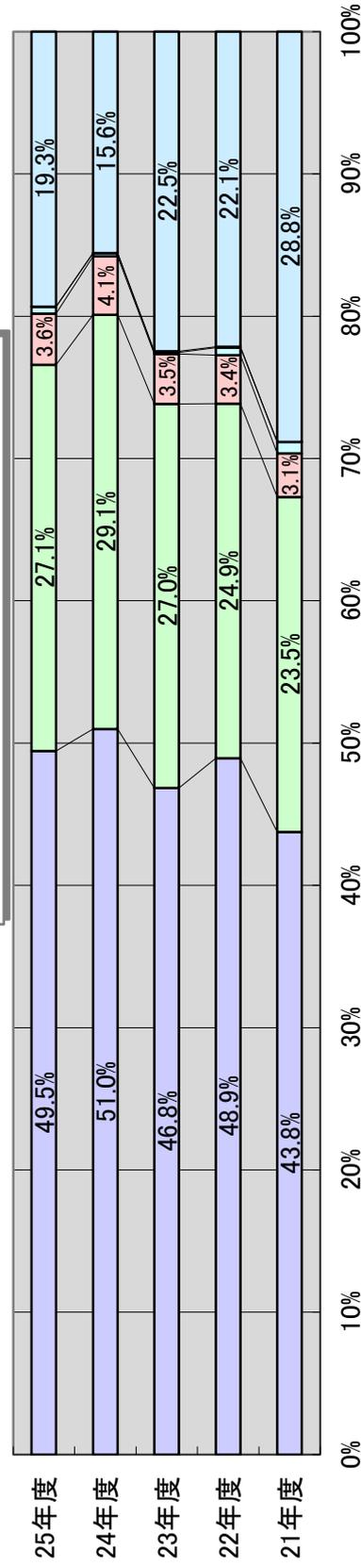
# 別表 18

## 帰属収入構成比率年度別推移



- 学生生徒等納付金
- 手数料
- 寄附金
- 補助金
- 資産運用収入
- 事業収入
- 雑収入
- 資産売却差額

## 帰属収入に対する消費支出構成比率年度別推移



- 人件費
- 教育研究経費
- 管理経費
- 資産処分差額等
- 徴収不能額等
- 帰属収支差額